

第5回 蒲郡北地区

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

日 時：令和3年10月31日（日）
午後1時30分～午後4時30分

主 催：蒲郡市

ZoomID：956 8572 0981

パスコード：733168

プログラム

開会	1：30
趣旨と経緯について ・ワークショップの趣旨・目的 ・進め方とスケジュール ・前回ワークショップでの議事概要	1：35
オープンハウス（パネル展示型説明会）結果概要	1：55
地区利用型施設再配置プラン案について ・再配置プラン案の評価・比較	2：00
（休 憩）	2：20
グループ討議 ・評価項目の確認と修正の提案	2：30
発表	4：00
事務連絡	4：25
閉会	4：30

<目次>

- ・ ワークショップの趣旨・目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ・ 進め方とスケジュール ・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ・ 第4回ワークショップの結果概要（案） ・・・・・・・・ 7
- ・ ふりかえりシートご意見 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- ・ ご質問等への回答 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
- ・ 評価の視点についてのご意見への回答 ・・・・・・・・ 42
- ・ 蒲郡北地区の再配置プラン案 ・・・・・・・・・・・・ 45
- ・ 再配置プラン案の評価検証 ・・・・・・・・・・・・ 48
- ・ 本日の検討内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
- ・ （別冊）項目ごとの評価の解説
- ・ （別冊）蒲郡北地区オープンハウス（パネル展示型説明会）結果概要

ワークショップの趣旨・目的

蒲江市では、急激に変動する社会情勢に対応した公共施設の機能配置や魅力向上を図るとともに、将来に大きな負担を残さない行財政運営を実現するために、公共施設マネジメントの取り組みを進めています。

これまでに市民の皆様のご意見を伺い、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」と「蒲江市公共施設マネジメント実施計画」を策定し、今後の公共施設の整備を進めるための道筋を示しました。

その計画では、小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の再編にあたっては、中学校区単位で住民の皆様のご意見を伺い、施設再編計画となる「地区個別計画」を策定することとしています。

このワークショップは、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。

蒲江市公共施設マネジメント基本方針

- ①適正化 将来を見据えた維持可能な施設規模に適正化します。
- ②効率化 効率的・効果的な維持管理を実施します。
- ③魅力 社会変化に対応した魅力ある公共施設へ再編します。
- ④安全性 計画的な保全により公共施設を安全に維持します。
- ⑤実行力 公共施設の再編に向けて実行体制を構築します。

市は、皆様のご意見を参考に蒲郡北地区（中部中学校区）の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

進め方とスケジュール

1 検討のステップ

市は、ワークショップ等で得られた成果をもとに、「地区個別計画」の策定に向けて次の5つのステップに分けて、段階的に検討を行います。

ステップ1 ワークショップ等を通じ、地区個別計画をどのような手順で策定するか確認します。

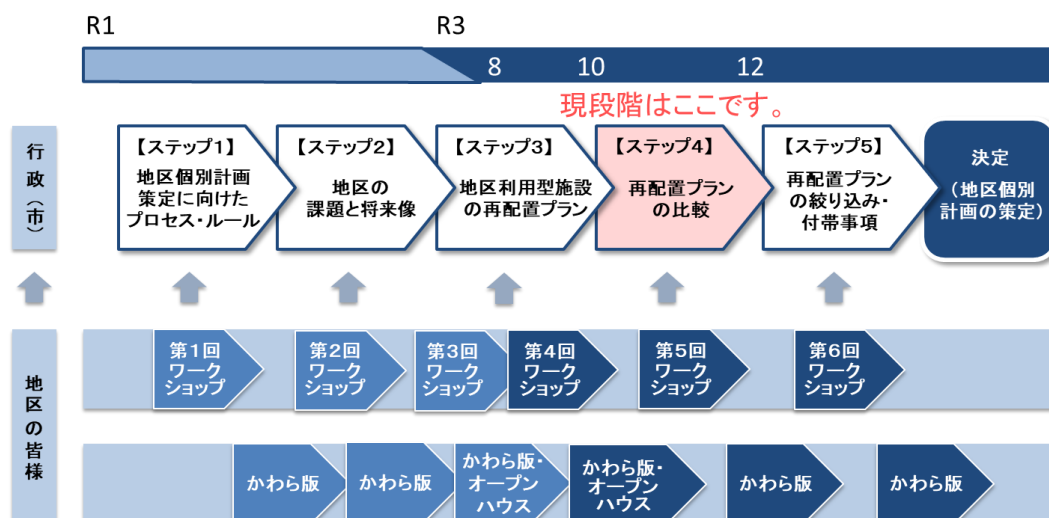
ステップ2 地区にどのような課題があるか確認して問題意識を共有します。

ステップ3 課題解決に向けた方策について共有し、複数の再配置プランを検討します。更に、複数の再配置プランを比較するための評価の視点について検討します。

ステップ4 複数の再配置プランをステップ3で検討した視点に基づき評価し比較します。

ステップ5 再配置プランを絞り込むとともに、運営面での工夫等の付帯事項について整理します。

2 スケジュール（予定）



3 コミュニケーション

「地区個別計画」の策定に向けた検討では、地区の皆様と様々なコミュニケーションを進めていきます。

- ・ ワークショップ
- ・ オープンハウス（パネル展示型説明会）
- ・ かわら版



【オープンハウス（パネル展示型説明会）】

地区の住民の皆様が集まる施設などでパネルを利用し、ワークショップでのご意見や検討された再配置プランなどの内容を広報します。

どなたでも立寄ることができ、住民の皆様からワークショップで検討されている内容についてのご意見をいただきます。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、開催を予定しています。

【かわら版】

地区内の各世帯に配布するチラシです。各回のワークショップ終了後、広報がまごおりとともに配布を行います。ワークショップでのご意見や検討された再配置プランなどをお知らせするとともに、ワークショップで検討されている内容についてのご意見を募集します。

4 ワークショップの概要

- ワークショップは、令和3年12月までに3回開催します。
- 原則、日曜日に開催します。
- 新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインで開催します。ご自宅等からの参加が難しい場合は、中部中学校にて参加できます。
- 事務局は、蒲郡市総務部公共施設マネジメント課が担当します。
- ワークショップには、公募でご応募いただいた方が参加します。
- 同じ参加者に継続してご参加いただき、議論を深めていきます。
- ワークショップでは、参加者の皆様にグループ討議で自由にご議論いただきます。
- 中部中学校に設置された中継会場から一般の傍聴者や報道関係者が会議を傍聴することができます。

5 ワークショップの進め方

- グループ討議の運営では、円滑な議論のため、司会進行を第三者的立場のファシリテーターがお手伝いします。
- ワークショップでは、グループごとの議論を中心に進め、各回ワークショップの最後に各グループの議論の結果を発表します。
- グループ討議の議論は要点をまとめて記録します。これは個人の発言が特定されるものではありませんので、自由に前向きな議論をお願いします。
- 市に対する要望・陳情の場ではありません。
- ワークショップの様子をホームページ等で公表するなど情報発信を行います。話し合いの様子を記録する場合があることをご了承ください。

6 ワークショップの成果

- ワークショップでのご意見を踏まえて複数の再配置プランを評価・比較し整理します。
- 整理した内容は、市が「地区個別計画」を策定する際の基礎情報として活用します。

7 ファシリテーターのご紹介

～こんにちは。皆さんの議論を円滑に進めるために、第三者的立場から議事進
行やとりまとめをお手伝いします。どうぞよろしくお願いします。～

なばた めぐみ
名畑 恵

NPO 法人 まちの縁側育くみ隊

ふじもり みきひと
藤森 幹人

株式会社 対話計画

かつらやま としあき
葛山 稔晃

株式会社 対話計画

いなば ひさゆき
稲葉 久之

フリーランス・ファシリテーター

- 話し合いに積極的に参加しましょう
- 自分の考えを率直に述べましょう
- 前向きな思考で発言しましょう
- 評論家ではなく当事者として関わりましょう
- 他の参加者の意見に耳を傾けましょう
- 気持ちよく運営できるよう協力しましょう
- 議論や運営に貢献する姿勢を讃えましょう

(必要があれば追加しましょう)

第4回ワークショップの結果概要

1 再配置プラン案について

1) A案「通学の安全を確保し、学校規模の適正化を図るプラン」

【期待すること】

- 国道 247 号を学区の境界にするのは妥当だと思う。ただし、西部小の分割を地域の方がどう思うかが懸念だ。

【不安なこと】

- 国道 247 号は信号や歩道も整備されており、今後国道 23 号バイパスの延伸により交通量が減少することも想定されるため、むしろ歩道のない道路や路地の方が安全面で気になる。
- 場所によっては中学生が自転車通学するより長い距離を、小学生が徒歩で通うことになる。
- 保育園から小学校の一体感が生まれる一方で、途中から入ってくる子が疎外感を受けないか。※
- 西部小が無くなってしまうと、地域の魅力が薄れ、衰退を招きかねない。※
- 西部地区には公園が無く、小学校の校庭は子どもの遊び場、居場所としても必要。※

【提案】

- 東西に通じている国道 247 号で学校区を分けるのではなく、南北に北部小、中央小へと分けるのはどうか。

2) B案「北部地区と西部地区の新たな交流拠点をつくるプラン」

【期待すること】

- 西部小と北部小の真ん中にある中部中の敷地に新しい学校を作るので、両

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

地区の住民にとって歩み寄りやすい案だと思う。

- 中学校が大規模になることに不都合はないと思う。※
- 北部、西部保育園から小学校への一体感が生まれるのは評価できる。※

【不安なこと】

- 中学校敷地に多くの施設を集約するが、敷地規模は十分に足りているのか。※
- 保育園から小学校の一体感が生まれる一方で、途中から入ってくる子が疎外感を受けないか。※
- 西部小が無くなってしまうと、地域の魅力が薄れ、衰退を招きかねない。※
- 西部地区には公園が無く、小学校の校庭は子どもの遊び場、居場所としても必要。※
- 中学校の統合に問題はないが、中学生の通学距離が長くなることが懸念される。※
- 市内の他の中学校と規模の格差が大きくなると、部活動などで有利不利が出てしまう。※
- 中学校を統合する際に、新たに校舎を建てたり、敷地を広げることになれば費用面の問題があるのではないか。※
- 中学校の統合にあたり、レベルの差など就学調整が必要なのではないかと思う。※

【提案】

- スクールバスがあると中学生の通学の安全性を確保できる。※
- 中央小学区の一部の人は塩津中へ通えば、蒲郡中の巨大化を抑制できるのではないか。ただし、その場合、校区の再編による混乱も懸念される。※

3) C案「地域の交流拠点をつくるプラン」

【期待すること】

- 各地域で交流拠点を作るプランであり、地域本来の姿を活かしたプランである。
- 西部地区、北部地区のコミュニティがそのまま維持される点は評価できる。※
- 西部小は人数が極端に少ない学年もあり、子どもによっては仲良くしにくい状況もでてくる。中央小から子どもたちが来て、西部小の人数が増えるとバランスも良い。
- 中央小は、もともと西部小と南部小の学区からできたため、中央小が分かれるのはあまり違和感がない。※
- 児童数の減少により学校を再編する場合、過去に新設した学校から見直しを計っていくのが順序のような気がする。※

【不安なこと】

- 西部小学区、北部小学区ともに市街化調整区域が多く、今後も人口が増える見込みがない。※
- 学校規模の適正化や財政面の解決につながらない。※
- 小中学校規模適正化方針では、中央小は標準規模を確保しており、あえて分離する必要性を感じない。※
- 中央小がなくなってしまうと、通っている児童や地域コミュニティはどうなってしまうのだろうか。※
- 中央小を西部小と南部小に分ける際に、学区境をどこに設定するかが課題。※
- 中央小が避難場所になっており、避難場所が今より高台に移るのはよいが、遠くなるのは心配だ。※
- 保育園から小学校の一体感が生まれる一方で、途中から入ってくる子が疎

外感を受けないか。※

【提案】

- 西部小エリアは市街化調整区域のため子どもが増えづらいので、小学校を存続させるのであれば、どういう機能を持たせるのか議論すべきである。
※
- 西部小は小規模校という利点を活かし、他では学べないことを学べたり、学びにくい子どもが学ぶことができるなど、市の中で特別な学校となってもいいのではないか。※
- 地域コミュニティ維持の観点から、西部小のような小規模校も選択肢のひとつとして、公民館や保育園と集約化して維持してはどうか。※
- 栄町在住の子は塩津小に行くのも良いかもしれない。※

4) D案「地域性を維持し、各地に子育ての拠点をつくるプラン」

【期待すること】

- 3つの小学校が維持でき、既存の地域コミュニティを保つことができる。
- 西部地区、北部地区のコミュニティがそのまま維持される点は評価できる。※
- 小学校、保育園、公民館が一緒になることで、送迎の負担が少なくなる。また、地域で見守るという点でも良いと思う。
- 中学校が大規模になることに不都合はないと思う。※

【不安なこと】

- 施設の集約が少ないので、将来負担が課題となる。
- 学校規模の適正化や財政面の解決につながらない。※
- 西部小の規模適正化の解決にならず、人数が少なく仲良くしにくい状況も出てくる。
- 西部小学区、北部小学区ともに市街化調整区域が多く、今後も人口が増え

る見込みがない。※

- 保育園から小学校の一体感が生まれる一方で、途中から入ってくる子が疎外感を受けないか。※
- 中学校の統合に問題はないが、中学生の通学距離が長くなることが懸念される。※
- 市内の他の中学校と規模の格差が大きくなると、部活動などで有利不利が出てしまう。※
- 中学校を統合する際に、新たに校舎を建てたり、敷地を広げることになれば費用面の問題があるのではないか。※
- 中学校の統合にあたり、レベルの差など就学調整が必要なのではないかと思う。※

【提案】

- 地域ごとに施設を残すことで財政的に大きな解決に至らないのであれば、無理して建替え、複合化するのではなく、現在の建物を長期にわたって使用するのがよいだろう。
- 中央小学区の一部の人は塩津中へ通えば、蒲郡中の巨大化を抑制できるのではないか。ただし、その場合、校区の再編による混乱も懸念される。※
- 西部小エリアは市街化調整区域のため子どもが増えづらいので、小学校を存続させるのであれば、どういう機能を持たせるのか議論すべきである。
※
- 西部小は小規模校という利点を活かし、他では学べないことを学べたり、学びにくい子どもが学ぶことができるなど、市の中で特別な学校となってもいいのではないか。※
- 地域コミュニティ維持の観点から、西部小のような小規模校も選択肢のひとつとして、公民館や保育園と集約化して維持してはどうか。※
- スクールバスがあると中学生の通学の安全性を確保できる。※

5) E案「充実した教育の拠点と世代間交流の場をつくるプラン」

【期待すること】

- 地域の子どもがひとつの小中学校で学べるのは良いと思う。
- 小学校と中学校で連携ができるという点は評価できる。※
- 中学校と公民館を同じ敷地にすることで、思春期の中学生にも良い影響があるのではないか。※
- 中央小は、もともと西部小と南部小の学区からできたため、中央小が分かれるのはあまり違和感がない。※
- 児童数の減少により学校を再編する場合、過去に新設した学校から見直しを計っていくのが順序のような気がする。※

【不安なこと】

- 子育てしながら働く世帯が増えることを考えると、送迎の面から小学校（児童クラブ）と保育園は近い方がいい。※
- 小学校が合併し学校規模が大きくなった上で、小中一貫校にすることで、ますます子どもに目が行き届かなくなることが心配。
- 小中一貫校では、小学一年生と中学生が同じように学んだり行事したりすることや、小学生高学年でリーダーの自覚を養う機会がなくなってしまうのか懸念もある。※
- 西部小が無くなってしまうと、地域の魅力が薄れ、衰退を招きかねない。
※
- 西部地区には公園が無く、小学校の校庭は子どもの遊び場、居場所としても必要。※
- 小中学校規模適正化方針では、中央小は標準規模を確保しており、あえて分離する必要性を感じない。※
- 中央小が無くなってしまうと、通っている児童や地域コミュニティはどうなるのだろうか。※

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 中央小を西部小と南部小に分ける際に、学区境をどこに設定するかが課題。※
- 中央小が避難場所になっており、避難場所が今より高台に移るのはよいが、遠くなるのは心配だ。※
- 中学校敷地に多くの施設を集約するが、敷地規模は十分に足りているのか。※

【提案】

- 栄町在住の子は塩津小に行くのも良いかもしれない。※
- 校長が 2 人体制の小中一貫校よりも、1 人体制の義務教育学校の方がスムーズに運営ができると思う。※

6) F 案「小中学校規模適正化方針 A プランとランドデザインをもとに作成したプラン」

【期待すること】

- 北部、西部保育園から小学校への一体感が生まれるのは評価できる。※
- 将来の子どもたちに良質な教育をうけてもらえるならば、統合も前向きにとらえてもいい。※

【不安なこと】

- 用地拡大が必要となるため、財政縮減に効果があるとは思えない。西部小敷地が借地であることも気になる。
- 保育園から小学校の一体感が生まれる一方で、途中から入ってくる子が疎外感を受けないか。※
- 西部小が無くなってしまうと、地域の魅力が薄れ、衰退を招きかねない。※
- 西部地区には公園が無く、小学校の校庭は子どもの遊び場、居場所としても必要。※

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 中学校敷地に多くの施設を集約するが、敷地規模は十分に足りているのか。※

【提案】

- 中部中の移転先として西部小敷地が狭いのであれば、北部小敷地へ移転してもいいと思う。

7) G案「小中学校規模適正化方針Bプランとランドデザインをもとに作成したプラン」

【期待すること】

- 小学校と中学校で連携ができるという点は評価できる。※
- 将来の子どもたちに良質な教育をうけてもらえるならば、統合も前向きにとらえてもいい。※
- 中学校と公民館を同じ敷地にすることで、思春期の中学生にも良い影響があるのではないかと。※

【不安なこと】

- 小中一貫校になる場合、中央小の生徒だけが途中から一貫校に合流するのは、学習進度や友達づきあいなど、問題が大きいと思う。
- 小中一貫校では、小学一年生と中学生が同じように学んだり行事したりすることや、小学生高学年でリーダーの自覚を養う機会がなくなってしまうか懸念もある。※
- 西部小が無くなってしまうと、地域の魅力が薄れ、衰退を招きかねない。※
- 西部地区には公園が無く、小学校の校庭は子どもの遊び場、居場所としても必要。※
- 子育てしながら働く世帯が増えることを考えると、送迎の面から小学校（児童クラブ）と保育園は近い方がいい。※

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 中学校敷地に多くの施設を集約するが、敷地規模は十分に足りているのか。※

【提案】

- 当事者の考えや条件によって、越境入学など学校選択の自由度があれば良い。
- 校長が 2 人体制の小中一貫校よりも、1 人体制の義務教育学校の方がスムーズに運営ができると思う。※

※ 複数の案に共通する観点からいただいたご意見については、各案に重複して掲載しています。

8) 全案に共通すること

【施設の複合化について】

- 学校施設でも使っていない時間は地域が使うことができるなど、補完しあう関係があれば複合も期待できる。
- 一つの敷地に多くの施設を入れ込むのは難しいのではないかな。
- 複合化することで様々な人が学校に出入りするの安全面で心配だ。

【学校・学区について】

- 小学校は地域全体にとって重要な役割をもつ施設なので、市の財政面だけで統廃合を決めるのは良くない。
- 小規模な学校のほうが先生が目も届きやすく、子どもにとっても縦割り活動や情緒の安定など良さがあると思う。
- 学校の再編により通学距離が長くなり、子ども達の負担が増えることが心配である。昨今の気候なども考慮し、通学の安全性を考えてほしい。
- 現在の学校区を変化させるので、混乱をきたすのではないかな。
- 学校の統廃合により学区が変わったとしても、今の若い世代であればあまり気にならないだろう。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 西部小が小さいことが問題になっているが、学区を広げることは考えられないのか。

【子育て環境について】

- 保育園は保護者が送り迎えをするので、通園距離はあまり問題ではない。
- 保育園は規模が小さくアットホームなものなど、いろいろなタイプが選べることも意味がある。
- 児童クラブの人数が増えると子どもたちのサポートはどうなるのか心配だ。

【公民館について】

- 公民館が変わってしまうと、地域の伝統が崩れてしまうと思う。地域のつながりを優先するのならば、公民館も各地域に配置されている方がよい。
- 防災面や高齢者福祉、障がい者福祉の面から、公民館は歩いて行ける距離にあるとよい。
- 中央小に公民館が入ると、管理する行政区の見直しが必要になる。
- 公民館を地元で管理運営しており、将来的に担い手不足で公民館の存続ができるかが心配。

2 評価の視点に対する意見

① 地域での活動・交流のしやすさ

- 世代間交流や、外国籍の方も含めた多様な人の利用がしやすい施設配置となると良い。
- 集約後の施設配置で現在と同等の地域活動が維持できるかどうかは重要だ。

② 学校教育環境のあり方

- 中学校の部活動がなくなるので、部活動で学校を評価しても意味がない。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

学校再編を機に、学校とクラブ活動は切り離して考えてもよい。

③ 子育てしやすい環境づくり

- 北部の人たちは子育てしにくいとは思っていないと思うので、今のままでいいと考えている人は多いと思う。

④ 高齢者の居場所づくり

- 高齢者にとって移動が容易な場所に施設があるかが重要だ。
- 公民館での敬老会などの活動は重要だと思う。

⑤ 安全・安心

- 通学の安全性は重要な視点だ。人数が少なく、通学団が作れない地区もあり、犯罪も心配。子どもたちの安全・少子化の観点からも配置の検討を行う必要がある。
- 災害時における高齢者や障がい者の避難のしやすさなど、バリアフリー、ユニバーサルデザインの視点も盛り込むべきである。

⑥ 利便性の確保

- なし

⑦ 将来負担の縮減

- 運営コストを考慮する必要がある。
- 義務教育学校（小中一貫校）の方が小中連携よりも経費削減、効率化になる。

⑧ 運営の改善

- 公民館などの施設を世代間交流の場として、どう活用していくのか考える

必要がある。

- 施設が複合化していく際に、各施設の機能を有効活用することが重要である。

その他

- 将来世代にとって魅力ある公共施設であるかという視点が必要。魅力、安全性、実行力をまず検討し、その上で適正化や効率化を考えていくのが良いのではないか。
- サポートが必要な人たちをどう支えていくのかという視点が少ない。

3 その他

- 各案のデメリットばかりでなく、メリットを重点的に話し合った方が建設的に話し合えるだろう。
- このワークショップで議論されていることが、最終決定ではないという説明もあった。社会状況は刻々と変化していくので、再配置案を実行する時点で、改めて地域のコンセンサスを取る必要があるのではないか。
- 全市的な視点で施設の活用や配置を考え、その上で生徒数や規模のバランスをとるための調整というのも必要ではないだろうか。
- 感染症との付き合い方がまだ確立していない状況で、施設の統廃合を決めるのはとても心配だ。今後、学校の適正規模が小さく見直されるかもしれない。
- 人口は推計よりもっと減るのではないか。計画のためにはもっとシビアに見ることも必要である。
- 時代の流れや、将来世代への負担を考えると施設を統廃合していくのは納得できるので、実際の費用を確認したい。
- 現状あるものを長寿命化するという考え方が第一であろう。国が考えを示

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

したときも長寿命化するほうが良いとしている。

- 統合や複合化をする代わりに、全市的な施設で機能を充足されるとよい。
- 中央小学区は地域外からきた人が多く、他地区と比べて地域交流が薄い印象だ。
- 学区と自治会のズレがある地域もあり、お祭りや子ども会等で弊害が生じているため整合をとる必要があるが、整理は難しいとも感じる。
- 学校が再編されると子どもの通学距離が伸びる。人数が少なすぎて集団登校できない地域や、抜け道として大型車等が通行する地域もあるので、子どもの安全面から考えてもスクールバスを導入してほしい。＊
- コミュニティバスをスクールバスとして活用することができないか検討してほしい。
- 少人数教育を市内全域で進めるべき。
- 学区に関係なく、行きたい学校を選ぶ自由があっても良いのではないだろうか。
- 現在の公民館は高齢者の集会所というイメージがある。生涯学習拠点として、親世代を含めた多世代が関わる活動が重要だ。
- 将来の教育の在り方を考えると、生涯にわたる教育を提供する場が必要である。そうした機能が各中学校区にあるとよい。
- 公民館活動でも名簿が開示されないなど、地域活動における個人情報の問題が障壁になっている。改善できないか。
- 蒲郡は海があるのだから、市民プールがないのは恥ずかしい。市民プールをつくってほしい。

＊：出席者より修正意見をいただいたため、当日配布資料から修正を行った項目です。

ふりかえりシートご意見

1 今日の議論で良かったこと

- 皆さんの意見を聞いているうちに、漠然としていた内容が具体的に見えるようになりました。大きな視点で見えていたり、専門的に掘り下げていったりして勉強になりました。
- 率直に多くの方の意見・考え方が分かったこと。教育的観点の話はむづかしい。A～G案の中身が財政問題とセットで考えたときに理解しにくい面がある。
- 蒲郡市の未来について市でこれから考えていく事業なのでよいと思います。
- 参加者の自発的な発言が多かった
- 再開前のワークショップでも、今回のワークショップでも、公民館の利用者は固定化しているという指摘がありました。また、施設を新しくしたところで、魅力的な講座や催しがないければ、そしてある程度強制力のある行事（奉仕作業など）でなければ利用者は増えないのではないかという指摘もありました。小学校や保育園はその地域に対象の年齢の子どもがいる限り利用者はいますが、公民館においては利用状況を鑑みても、その在り方を考え直し、場合によっては規模を縮小せざるをえないのかもしれませんが。ですが、社会教育の側面においては統合などして規模縮小していても、地方自治の窓口的な側面においては、機能として残していく必要性を感じます。（F案G案にあるように、校内に公民館活動や地域との連携ができる場所を設置するなど）
- 通学路は整備された国道より、狭い路地の方が危ないという意見
- 各プランに対し、参加者の方の様々な意見や考えが聞けたこと。また、各プランを横並びで比較、議論することで、それぞれの課題や問題点を抽出できたこと。
- 少しずつ何を議論していくのか分かりかけてきた気がします。皆さんの意見、考え方を聞くことが出来て良かったと思います。
- 参加者の皆さんの積極的な発言があり、それぞれの案への率直な意見交換ができたこと。各案に対して自分自身が感じていなかった懸念点を気づかせて頂けたこと。
- この案はここが不安、、、というふうに、デメリットばかりが浮かびやすくなってしまい、自分の発言内容をもっとプラスなものにしていければよかったなと反省しました。メリッ

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

トデメリットを共有し、建設的で明るい議論を心掛けたいです。

- すべての公共施設を維持していくことが難しい中で、何を優先すべきか考えさせられました。子どもは地域の未来ですし、子どもの育ちは社会の発展に関わります。地域のなかでの学校の教育環境の在り方は小規模校、大規模校含めて改めて再考していくべきだと思いました。皆さんの意見を聞いて、中学生、高校生へと発達していくことでより大きなコミュニティの中で過ごすことのメリット（部活動の選択の幅が広がったり、様々な人間性と触れ合うなど）もあるんだと認識できました。中学生は自転車通学も可能ですし、活動範囲の幅は広がります。一方で年齢が低ければ低いほど、子どものコミュニティはより小さい方が、交通安全や防犯の面、教育の面（先生が目が行き届きやすいなど）においてもよいのではないかと感じました。

- 今回の会議でよかったことは、ファシリテーター（名畑さん）のお陰で議論を円滑に進めていただけた、グループに分かれてもスムーズに議論することが出来て良かったと思いました。名畑さんの初めのお話にもありましたように、グループ内に人の意見に否定したりする人もおらず、人の意見に耳を傾けられる雰囲気でした。

初めての参加の方にも進行をしてくださる方がいることで意見が言いやすいように感じられました。上手にまとめて下さることもよいと思いました。

今回は簡単な自己紹介もあったことで、どこの地域の方か、初めての参加なのか、子供さんの役員をしているとか、どんな観点からの意見かが理解が出来ましたので、自分の気付かないような意見を伺うことが出来てとても良かったと思いました。またグループの皆さんが蒲郡や将来、お子さんのことを真剣に思っていることもよくわかりました。

今回は具体的に A から G までのプランを8つの視点から話し合いをしましたので、短時間ながら一つ一つのプランについて真剣に考えることが出来たと思いました。F、Gプランが増えたことで、より一層選択枠が増え、頭を悩ますわけですが、資料 1 ページの「住んでよかった、住み続けたい、愛着のもてるまちづくりを目指す」という言葉とともに、多くの資料を拝見し、ご準備くださり、市役所の皆様のご苦労や、ご努力に感謝いたします。こうした会議に参加して初めて分かるものだと思います。ありがとうございました。

今回のように編成する時に、ある程度、自由に学校が選べるようなこともよいと思いました。（意見言わせていただき賛同くださった方もいました）

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- グループディスカッションで皆さんと良い議論ができました。
- 保育園位のお子さんをお持ちの方の意見などがうかがえて良かったです。
- A～G 案につき、より具体的な実情把握及び実施に当たっての可能性と課題が焦点化されてきており今後の協議の見通しが明確になってきていることはよかったと評価しています。
しかし私自身の立場からすると、本件が焦点化されればされるほど「蒲郡市公共施設マネジメント基本方針」の③「魅力 社会変化に対応した魅力ある公共施設に再編します」との乖離が浮き彫りにされ、不満と不安がつのります。

2 内容について言い足りなかったこと

- 理解しているつもりで間違えた意見を言ってしまいましたが、上手に訂正していただいて助かりました。ありがとうございました。スクールバスについてはやっぱり、学校が減ると必要な人も出てくると思います。
- どの案も一長一短あり、非常に難しい問題であると思います。必ずしもこの案でなくてはならないということではなく、例えば、この施設とこの施設は同じところで、この施設とこの施設は別な場所で集合させてもよい、というようなことも考えてはどうでしょうか
- 小規模校でも大規模校でも、こどもは順応性があるので適応していけると思います。それぞれにメリット、デメリットあるので、どちらがいいとかは決められないです。
統合することで、今の地区が崩れてしまうという考えも分かりますが、これからの社会はますます個人単位になり、地域とのつながりを求める人は少なくなると思います。つながりが消えてしまうのは寂しいことですが、時代の流れだと思います。地区に固執せず、費用の面なども考えつつ、こども達にとって一番よい教育環境を整えてあげられるといいなと思いました。
- 再配置プランに F 案と G 案が追加され、それが教育委員会からの案との説明で“市の方向性はこの 2 案に沿ったものだろうな”と直感した(教育委員会名を出さなければいいのに…と思う。ただ個人的には F.G 案は良いと受け止めている)。そのため偏った意見や否定的な発言をしてはいけないと、発言を控えた。我々のような市の業務に関係のあるも

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

のは素直な意見というわけにはいかないもので、参加者としては妥当ではないと感じる。

- どのプランにどれだけコストがかかるのかという試算をするということでしたので、補修・改修しながら現状維持していく維持管理費の試算も必要かと思います。今回のタイミングで公共施設の建て替えや再配置をする必要が本当にあるのかという指摘もありましたし、また昨今持続可能な社会（SDGs）の重要性が注目されています。どの施設も耐震補強済みでありますし、今あるものを補修しながらできるだけ長く使い、この次のタイミングまで資産を残すという点においても、比較検討の余地はあるのではと思いました。

- 会議の時間がちょっと長い。そんなに時間はとれない。簡潔にもっと詰めて欲しい。
- 今さらですが・・・参加者の年齢層や世代、小学校区別等、ちゃんとバランスが取れているのか疑問でした。私のように市外から蒲郡に来た方、元々北部地区に住んでる方、北部以外の市内の方でも意見は違うと思います。その辺りの人選をちゃんとしたのかどうか。もう一度検証してみてもいいかがですか？どうしてもグループ討議で全く意見を言わない方（頼まれて仕方なく参加してる？）、地元の総代だかで自分の学区の文句しか言わない方、これでは建設的な議論もできません。

全体的に、資料のボリュームが多すぎる気がします。もう少しシンプルな資料にできないものでしょうか？

- このワークショップは蒲郡北地区（中部中学区）の公共施設についての議論のようですが、隣接地区との関係をどのように考えていくのか、というようなことが聞けるとよかったです。また、学校関係、保育園、公民館などについてパブリックコメントが行われていましたが、これらとの関係はどのように考えるのかをお伺いしたかった。
- 市の図書館と各学校の図書館の統合や繋がりがあのかないのかという点。市の図書館も学校統合先に組み込み、各学校の図書館の横のつながりを持たせる事でより効率的な運営ができるのではないかと感じています。10年、20年後の学校の姿として、現在すでにわかっている事を共有して頂けると、議論の前提条件が明確になると思います。今回、中学校の統合による規模拡大が部活動へ影響を与える可能性が話題になりましたが、学校での部活動は今後無くなるという話を聞いたことがあり、そうであれば部活動への影響についての意見交換は不要となります。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 地域性を維持しつつ、費用負担を軽減させていくことに、改めて難しく感じます。様々な案の中に、「小学校の敷地に・・・機能を集約」など「機能を集約」とありますが、公民館、小学校、保育園、それぞれがすべて独立したものでなければならぬと、今日の話し合いのなかで伺いました。この部分に可変性を持たせることは不可能なのでしょうか。現在も児童クラブは教室の一部を利用していますし、他の機能においても空き教室を利用するとか、家庭科室などの特別教室などを公民館活動と共同利用するとか、一つの建物に一つの意味しか持たせないのではなく、様々な使い方を可能にするなどしていくことはできないのでしょうか。今後保育園が廃園になっても、のちに公民館の子育て支援コーナーとして活用したり、今後公民館がなくなっても簡単なリフォームで老人福祉施設として活用するなど、施設の機能自体はなくなっても別の活用ができるように、後々残っても有効利用できる形として最初から考えておくことはどうでしょうか。

ひとつひとつの案を吟味することに時間を取られ、公共施設の将来を考える本質の部分まで話し合いが進まなかったように思います。全3回の貴重なワークショップなので、もう少し有意義な進め方が必要なのかなと思いました。

質問：F案G案の公民館のプラン作成の考え方に出てくる、「校内に公民館活動や地域との連携ができる場所の設置検討」とありますが、学校の敷地内に別棟を建設することなののでしょうか。それとも校舎内にそのようなスペースを設けるということなののでしょうか。公民館と何が違うのか知りたいです。

- 大半の皆さんが、自分の地区の大切な学校や、保育園、公民館は減らしたくないという気持ちがあると思いました。そして、地域のお子さんや、お年寄りを思うがために、現状のままだとよいという気持ちになるのだと思いました。今回のワークショップの趣旨には、将来に大きな負担を残さない行財政運営を実現とありました。私も将来に子供たちに負担は残したくないと考えています。そのためにはどうしてもやむを得ず、学校、保育園など縮減をしなくてはならないのではと考えました。

市内の学校、保育園、公民館は老朽化が進んでいます。安全で、安心で、より良い教育や保育を受けるためには、やはり建物自体も新しくする時期が来ているように思います。その他、人件費、経費の削減も考えざるをえません。今ある北地区の学校や保育園、公民館など全部を建て替えるなどはまず無理だと考えます。そうなりますと、どうして

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

も小学校や保育園は再編成や統合して、小規模対策などにも必要に思います。

再編成で効率化して、建て替えなど実現しましたら、例えばですが、階段が上がれないような生徒、保護者の利用できるエレベーターが学校内にできるといいのでは？お年寄りも公民館にエレベーターがあれば便利では？など色々思いました。公民館も効率化を考え統合しなくてはならないのであれば、公民館に加えて高齢者が歩いていけるような、今、地域にある集会場も災害などでも避難時にも安心して使用が可能にしてはどうでしょうか？

各プランの費用についても少しお教えいただきたいと思います。

それから A から G プランとプランが多いので、もう少し絞っていくのもよいのではないのでしょうか？

- 公民館は耐震性はあるが老朽化はしているということでしたので、中学校や保育園の空き教室があればそこに公民館の機能を持たせてもよいのではと思いました。

地域の住民と公民館、行事、学校は切っても切れない関係にあるので難しいことだと思いました。

- 「学校教育の受け皿の縮小と生涯教育の受け皿の拡大が求められる社会の変化」

【前者について】子どもたちの健全育成への対応や教員の働き方改革の改善内容を見通したとき、現在実施している小中学校での部活動は、社会体育の受け皿へと移行せざるを得ない状況にある。また、家庭環境（核家族の進展、一人親世帯の増加、働き方改革）の変化に伴い、学校拘束時間外及び休日・長期休業中の子どもたちの多様なニーズの受け皿としての生涯学校あるいはコミュニテスクールの施設とその枠組みが必要となる。

【後者について】将来ますます成熟社会の進展が予想される中、全世代型の生涯学習の機会と経済活動における労働生産性の向上は、より豊かな社会生活実現の必須要件として捉えられてきている。特に生涯学習と疎遠になりがちな就労世代の人たちが、多様な学びを通してスキルアップを図ったり起業へのノウハウを貯えるなどして労働生産性の向上が図られたりしていくといった構図である。

また、障がい者や外国籍の人などへの生涯教育（市民教育）の重要性も今以上高まることが予想され、その受け皿としての施設は多様性社会実現の目玉になっていくと予想す

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

る。

「多様な生涯学習の受け皿としての生涯学校（コミュニティスクール）の創設」

上記2つの受け皿となり得る施設の創設に当たっては、現行の学校施設を学校教育から生涯教育に一部移譲（中学校区に一つ）し、生涯学校として多機能を有する総合的な学びの施設に育てていくことである。できるなら、運動施設や文化施設が充実して、駐車場の確保が有利な中学校を生涯学校として改築・整備していくことが望ましい。その一方で、現状での条件の良い小学校を増築・整備して、1年生から中学3年生までの義務教育の一元化を目指す義務教育学校を市内に8～10校程度創設することが必要と考える（国への教育特区の申請）。現状の学校施設を利用することで、創設予算はかなり縮減されると予想する。

また、現状での生涯教育を担う中核施設としての公民館は、それぞれの地区に管理運営を移譲し、地域住民の交流の場としてより気楽に使い勝手の良いものへと育てていく。

「地域コミュニティ意識の変容を踏まえた新たな市民意識の涵養」

ワークショップにおける話し合いの場においても、論調が地域エゴに傾いている場合が多く、これらの計画が実施に移される過程においてはさらに地域エゴがぶつかり合い机上の空論に留まってしまうのではと心配される。前述した基本方針③の社会の変化と市民のニーズとしての内容を共通理解した上で、各地区での検討が重要と考える。できるなら現行の行政区、学区を再編成するぐらいの意気込みをもって構想をぶつけ合っていきたい。

ご質問等への回答

- 保育園と小学校、公民館を集合・複合化させることが理解できない。個別に建替えるのと集合化させることに、財政的にどの程度の差があるのか。一概に複合化が妥当であるとは言いにくいのではないだろうか。
- 各プランのコスト試算が把握できなければ評価のしようがない。少なくともこれまで議論されてきたA～E案については試算が上がってくるべきではないだろうか。

複数の施設を集合することで、重複する機能（トイレ、廊下、調理室など）の共有による維持管理費用の縮減が見込まれますが、施設の集合による効果は費用面だけではありません。

利用者の異なる様々な施設が集合することで、日常的に顔を合わせることとなり交流機会の増加が期待できます。また、例えば学校と公民館の集約により、音楽室や図工室などの特別教室を地域開放することで、公民館活動の幅が広がること等も期待できます。

なお、将来50年間における各案の維持管理費用の試算については、別冊資料「項目ごとの評価の解説」p.26をご確認ください。

- 現在あるものを長寿命化するという考え方が第一だろう。国が考えを示したときも長寿命化するほうが良いとしている。

ご意見いただいたように、国では官庁施設の老朽化対策を実施し、既存施設をより長く安全に使用するとともに予算の平準化等を図るという考え方を示しています。

蒲郡市においても、施設の安全性確保や財政的負担軽減の観点から、今後も継続して保有する施設については、計画的に予防保全を行うことで長寿命化を図るという考え方を持っています。しかし、全ての施設を同じように長寿命化できるわけではなく、利用状況、老朽化状況等を踏まえて長寿命化の可否を判断する必要があります。

また、皆さまに提示した再配置プラン案には「機能を集合」「改築」といった記載がありますが、地区個別計画策定後すぐに施設の建設が始まるというわけではありません。老朽化状況や施設のもつ課題、他地区施設の状況等を踏まえて実際の整備時期を総合的に判断し、建設事業に移ることとなります。今の段階で地域の皆さまからご意見をいただきながら事前に建替え後の施設配置を検討することで、現在の施設を今後どのくらいの期間使い続ける必要があるのか、そのためにはどのような改修が必要となるのか等の見通しを立てられるようになります。

- 参加者の年齢層や世代、小学校区別等、ちゃんとバランスが取れているのか疑問でした。市外から蒲郡に来た方、もともと北部地区に住んでいる方、北部以外の市内の方でも意見は違うと思います。その辺りの人選をちゃんとしたのかどうか。もう一度検証してみたいはいかがでしょうか。（ふりかえりシートより）

年代や住んでいる地域などバランスよくご意見をいただけるよう、参加者募集の段階で多様な方にお声がけをさせていただきました。特に、将来的に公共施設を使用していく親世代の方には、より多くご参加いただきたかったことから地区内3園ある保育園の父母の会や、各小中学校のPTAの方にもお声がけをさせていただきました。

グループワークにおきましても、グループ毎に意見の偏りが出てしまわないよう、参加者の年齢や住んでいる地域などを考慮し、4つのグループに分けさせていただいております。しかし、オンライン開催の都合上、参加定員を2年前の開催より少なくさせていただきましたので、当日の参加状況によっては、参加者のバランスが崩れてしまっているかもしれません。その点につきましては、ご了承くださいますようお願い申し上げます。

- このワークショップは蒲郡北地区（中部中学校区）の公共施設についての議論のようですが、隣接地区との関係性をどのように考えていくのか、というようなことが聞けるとよかったと思います。（ふりかえりシートより）

蒲郡北地区の東に位置する蒲郡南地区（蒲郡中学校区）では、平成30年度にワークショップを実施しており、両地区一緒に考えていきたいといったご意見をいただいています。また、事務局としましても蒲郡北地区・蒲郡南地区は一部総代区をまたがっている等、関連性の強い地区であると考えています。

両地区合同の検討会を開催することは、ワークショップの規模・検討範囲等が大きくなるため考えておりませんが、今回蒲郡北地区の皆さまから頂くご意見も参考にして、市では両地区の地区個別計画を策定する予定です。

- 学校関係、保育園、公民館などについてパブリックコメントが行われていましたが、これらとの関係はどのように考えるのかをお伺いしたかった。
(ふりかえりシートより)

7月31日に開催したオリエンテーションにて、各施設の今後の方針となる「蒲郡市小中学校規模適正化方針」「公民館グランドデザイン」「保育園グランドデザイン」についてご説明しました。市は、ワークショップで頂くご意見と各施設の方針とを総合的に判断し、地区個別計画の策定を行います。

参加者の皆さまにおかれましては、これらの方針もご確認のうえ自由なご意見をいただければと思います。

- 西部保育園以外に借地になっている施設はあるのでしょうか。

今回ご検討いただく施設のうち以下の施設が借地となっています。

- ・ 蒲郡西部小学校（一部）
- ・ 西部保育園（一部）
- ・ 西部公民館

- 学区と総代区のズレ等の問題意識があるが、学区境を変える計画検討などは今までなされていないのか。

市内の通学区域は、教育委員会が主催する蒲郡市公立学校通学区域審議会にて審議され、定例教育委員会に上程・承認されることで、変更が可能となります。道路の新設や、区画整理等による街区の変更なども含め、必要があれば随時変更をしています。

直近では、平成27年12月の定例教育委員会で、塩津小学校と中央小学校の学区境の見直しが承認され、平成28年4月1日より、適用されています。

また、学区と総代区のズレについては、蒲郡北地区以外の地域でも発生しており、住民の方からは見直しを求める声をいただいております。しかし、教育委員会としましては、現在の学校区を変更することは通学している児童・生徒や親への負担を十分に考慮し、慎重に検討していく必要があると考えています。

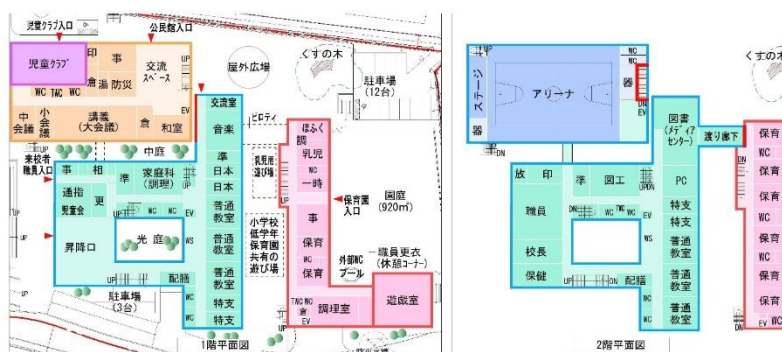
まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

小中学校規模適正化方針の策定段階においても、適正化の手法のひとつとして学区の再編も検討されましたが、最終的に本方針においてはその手法はとられませんでした。

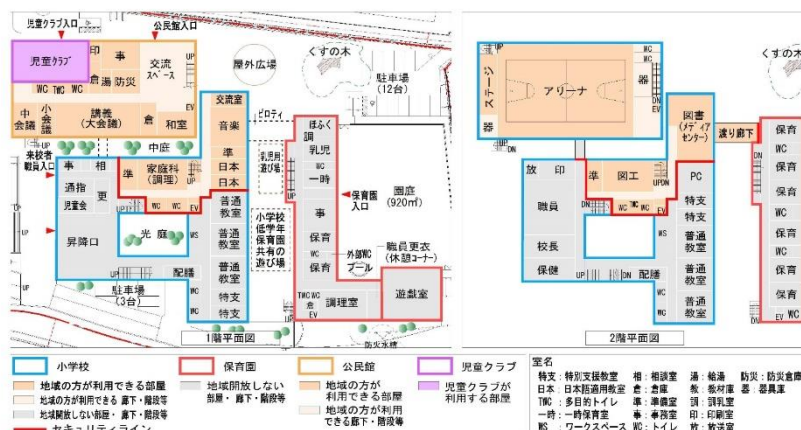
- 複合化することで様々な人が学校に出入りするのは安全面で心配だ。

令和3年8月に地区個別計画に基づく基本計画を策定した塩津地区では、現小学校の敷地に、小学校・保育園・公民館・児童クラブの機能を集合する計画になっています。計画の中で、施設の相互利用を進めるにあたり、各施設の運営時間や運営方法が異なることから、一般時と地域開放を行っているときの2段階のセキュリティラインを設けています。一般時（学校授業時）は、音楽室、図工室、体育館、家庭科室等の集約・共用ゾーンは学校・保育園利用とする一方で、解放時（土日祝日、放課後）は地域利用を可能としたセキュリティラインを設定しました。具体的に図示したものが次の図となりますので、参考にしてください。

一般時（学校授業時）



解放時（土日祝日、放課後）



- 感染症との付き合い方がまだ確立していない状況で、施設の統廃合を決めるのはとても心配だ。今後学校の適正規模が小さく見直されるかもしれない。

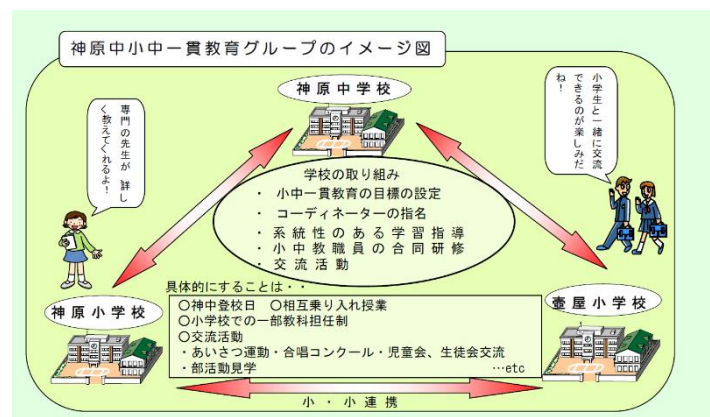
国は今年6月、教育再生実行会議において「ポストコロナ期における新たな学びの在り方について」をとりまとめ、コロナ禍における課題や今後のデジタル化を踏まえた新しい教育のあり方について提言を示しました。

中ではタブレット端末における学習履歴等のデータを活用した指導の導入や、対面指導とオンライン・遠隔指導のハイブリット化の可能性といったICT活用に関する内容だけでなく、個別最適な学びの実現及び感染症対策としての身体的距離確保のため、小規模学級（35人学級）の導入等についても述べられています。また、「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について（中間報告）」においても、ICTの活用や新しい生活様式を踏まえた施設整備について触れられています。

地区個別計画、計画策定後の設計段階においてはこういった様々な指針をもとに検討するほか、新たな指針が示された場合は状況に応じて計画の見直しを行う予定です。

- G案と同じように小中一貫や小中隣接の中に、中学から途中合流する学区が混在するパターンの問題をきちんと把握したいため、事例があれば知りたい。

東京都八王子市や沖縄県那覇市などで1中学校に対し複数小学校が連携する形の小中一貫教育を行っている事例があります。



那覇市立神原中学校イメージ図

那覇市立神原中学校の事例では、隣接する神原小学校と学区内の離れた場所に立地する壺屋小学校の2校と連携しています。小学1年生から中学3年生まで9年間で意識したカリキュラムの作成や、3校合同の教職員研修などを実施し、一貫性のある教育を図っています。また、神中登校日として各校の小学生が神原中学校へ登校し、中学生と交流をしたり、中学校教員から授業を受けることで小中学校の繋がりを深めています。

- 「地域に根ざした中学校」の具体的な意味が想像できない。

教育委員会では市内の小中学校を、地域の方々と学校が一緒になって地区の子どもたちの教育を考え、地域の方々と一緒に教育活動を行っていく「コミュニティ・スクール」とすることにより、「地域とともにある学校づくり」を進めています。蒲郡北地区（中部中学校区）についても、令和6年度から本格的にスタートする予定です。

具体的には、中学校の授業の中で、地域のことを、地域の方と一緒に学ぶ機会を増やしたり、地域の活動に子どもたちが、より主体的に参画していくことなどが考えられます。令和3年度は、蒲郡中学校区及び西浦中学校区においてモデル校としての取り組みがスタートしています。地域の方に講師を依頼し、蒲郡中学校区では野菜の植え付け、カブトムシの育成、西浦中学校区ではプログラミングやミシンの体験などを行いました。

- 10年後、20年後の学校の姿として、現在すでにわかっていることを共有していただけると、議論の前提条件が明確になると思います。今回、中学校の統合による規模拡大が部活動へ影響を与える可能性が話題になりましたが、学校での部活動は今後なくなるという話を聞いたことがあり、そうであれば部活動への影響についての意見交換は不要となります。（ふりかえりシートより）

教育委員会では、平成31年度に本市における部活動のあり方を「小中学校部活動指針」として取りまとめました。中学校では、部活動は生徒の自主的な活動であることを踏まえ、令和2年度に希望入部制度を導入し、部活動への参加は生徒の選択制となりました。小学校においては令和4年度に常設部活動が廃止される予定です。

また一部自治体では、維持管理にコストのかかる学校プールを廃止し、民間のスポーツクラブ等の施設、ノウハウを活用した水泳授業を行っています。蒲郡市でも蒲郡中学校等で試験的に実施しており、今後の検討次第では学校からプールがなくなること考えられます。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 小学校、中学校の集約化を評価する前に、小さな規模、大きな規模のメリット、デメリットについて整理して提示してほしい。

文部科学省が作成した一般的な学校規模によるメリット・デメリットがまとめられた資料を掲載しますので参考にしてください。なお、次ページの資料は国が示す学校規模の標準（１２～１８学級）に比べて少ない場合、多い場合を想定して作成されたものであることにご留意ください。

特に蒲郡西部小学校のように学年単学級（１学年１クラス）の学級規模が小さい場合、以下のようなメリット・デメリットがあげられています。

小規模学級におけるメリット・デメリット ※（例）より抜粋

メリット	・ きめ細やかな指導がしやすくなる ・ 様々な活動のリーダーを務める機会が増える ・ 発言の機会を多く確保できるようになる など
デメリット	・ 運動会、修学旅行などの集団活動・行事の教育効果が下がる ・ クラス内で男女の偏りが生じやすい ・ 体育科の球技や音楽科の合唱のような集団学習の実施に制約が生じる ・ 班活動やグループ分けに制約が生じる ・ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる ・ 教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる ・ 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる ・ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる など

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

学校規模によるメリット・デメリット(例)

※ 学校の適正配置に関して都道府県・市町村が作成している計画等を参考に文部科学省において作成

	小規模化		大規模化	
	メリット	デメリット	メリット	デメリット
【学習面】	○ 児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	○ 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ○ 1学年1学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。	○ 集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。	○ 全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
	○ 学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。	○ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ○ 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ○ 児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。	○ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。 ○ 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい。 ○ 児童・生徒数、教員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りやすい。	○ 学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。
		○ 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。	○ 様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。	
【生活面】	○ 児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ○ 異学年間の縦の交流が生まれやすい。	○ クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ○ 集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ○ 切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。	○ クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 ○ 切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。	○ 学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。
	○ 児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	○ 組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。	○ 学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。	○ 全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
【学校運営面・財政面】	○ 全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ○ 学校が一体となって活動しやすい。	○ 教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ○ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ○ 一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ○ 教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。	○ 教員数がある程度多いため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやすい。 ○ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい。 ○ 校務分掌を組織的に行いやすい。 ○ 出張、研修等に参加しやすい。	○ 教職員相互の連絡調整が図りづらい。
	○ 施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	○ 子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。	○ 子ども一人あたりにかかる経費が小さくなりやすい。	○ 特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある。
【その他】	○ 保護者や地域社会との連携が図りやすい。	○ PTA活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。	○ PTA活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。	○ 保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 学校が再編されると子どもの通学距離が延びること、子どもの安全面から考えてもスクールバスを導入してほしい。
- スクールバスがあると通学の安全性を確保できる。
- コミュニティバスをスクールバスとして活用することができないか検討してほしい。

一部の自治体では、児童生徒の遠距離通学を緩和するためスクールバスを導入しています。また、ご意見いただいたように、通学の安全確保の手段として僻地支援のスクールバスに通学距離が短い児童生徒を同乗させる取組等もなされています。県内でも田原市、豊明市などでスクールバス等の通学支援が行われています。以下に実施状況等についてまとめましたので、参考にしてください。

田原市の状況

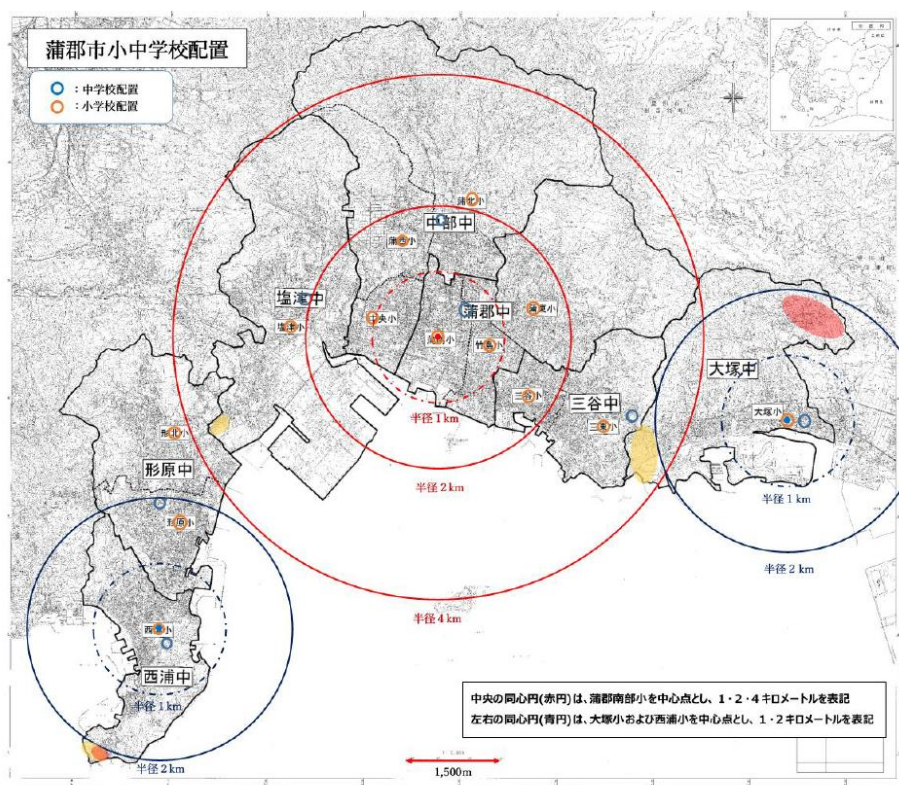
基本的な考え方	①概ね4・6km 以内 ＝ 徒歩又は自転車利用 ②概ね4・6km を越える ＝ 路線バス・コミュニティバスを利用 （居住地周辺に利用可能な路線バス等が運行している場合） ③概ね4・6km を越えるが、路線バス等が利用できない ＝ スクールバスを利用
遠距離通学者 への支援	・ 路線バス等の通学費（運賃）への支援（上記②） ・ スクールバスの運行（上記③）
実際の事例①	和地小・堀切小・伊良湖小の統合により開校した伊良湖岬小の児童への遠距離通学支援として3台のスクールバスを導入
実際の事例②	野田中の田原中への統合に伴い、遠距離通学の生徒のため路線バスの通学費等の支援を実施

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

豊明市の状況

実施地区	沓掛小学校区内の「若王子地区」（小学校まで片道約4km）
実施方法	・コミュニティバスを若王子地区の通学に活用 ・利用料金は無料（従来より中学生以下の乗車は無料だった） ・導入にあたって学校の始業時間に間に合うよう始発を早めたり、運行経路の改正を行った
効果	・朝のんびりできるようになり、心にゆとりができた ・公共交通機関の利用機会ができ、公衆道徳を学ぶ機会が増えた
課題	・下校時間とバスの時間が必ずしも一致するとは限らない ・バス利用により歩く距離が減ったため、児童生徒の体力低下を指摘する声がある

市内小中学校の配置について



なお、他市の遠距離通学支援の状況や市内他地区の通学状況を踏まえると、学校を再編した場合においても蒲郡北地区内の学校は十分徒歩等で通学可能な範囲内であると考えています。

- 西部小が小さいことが問題になっているが、学区を広げることは考えられないのか。
- 中部中の移転先として西部小敷地が狭いのであれば、北部小敷地へ移転してもいいと思う。
- 当事者の考え方や条件によって、越境入学等学校選択の自由度があればよい。

教育委員会では、蒲郡市小中学校規模適正化方針の策定過程において、ご提案いただいたような各種手法の検討を行っています。

1点目、学区を広げる手法（通学区域の見直し）については、西部小学校を適正規模にしようとする場合、中央小学校区・北部小学校区のかかなりの区域を西部小学校区に編入する必要があること、それにより西部小学校以外が小規模校化してしまう懸念があります。

2点目、中部中学校の移転先については、「地域に根ざした学校」づくり推進の観点から、学校施設がなくなってしまう西部小学校区（西部小敷地）への中学校移設を規模適正化方針の対応策 A プランにおいて提示しています。仮に、ご提案いただいた北部小敷地への移転を想定すると、北部小・西部小・中央小の3小学校からなる中部中学校区のうち、もっとも北側のエリアに位置することとなるため、中央小学校区の児童の通学距離や学校配置のバランスを考慮しても西部小学校敷地が適当だと判断をしました。以上の理由から教育委員会では西部小学校の規模適正化対応策として A・B2つのプランを作成しました。

3点目、越境通学等の学校選択制の導入については、学校規模を適正化する手法のひとつではありますが、周辺の適正規模の学校が小規模校になってしまうことや、小規模校の規模がますます小さくなる恐れもあることから、適正化の手法としては適さない判断いたしました。また、小中一貫教育における教育体制や運営方法については、現在先進自治体の事例を参考に検討を行っているところです。したがって対応策プラン B については、小中一貫教育の仕組みや教育カリキュラムの観点をより研究することで、課題といえる途中合流の不利益がないようにしてまいります。

- 市の図書館と各学校の図書室の統合やつながりがあるのかないのかという点。市の図書館も学校統合先に組み込み、各学校の図書室の横の繋がりを持たせることでより効率的な運営ができるのではないかと感じています。（ふりかえりシートより）

蒲郡市では学校図書館支援事業として、市立図書館の支援員が週数回各学校を訪問し、テーマ展示や授業支援など図書室の利用促進を行っています。

先に計画を策定した塩津・西浦地区の基本計画書では、学校図書館を地域開放することで、小学生・中学生・地域住民が利用する交流の場を整備する計画となっています。施設整備後の運営方法等については今後協議していくこととなりますが、図書室の開放により地域の皆さまも様々な種類の本を閲覧できるようになることを想定しています。

市立図書館については地区の方のみでなく、市内全域の方が利用する全市利用型施設であるため、このワークショップの検討対象外の施設ではありますが、いただいたご意見は今後の検討の参考とさせていただきます。

- 複合化などで機能廃止後の公民館活用のイメージのために、他地区の地域による運営状況等の事例を知りたい。

蒲郡市内では、過去に公民館機能廃止後における施設活用をした事例がありませんが、西尾市では市所有のコミュニティ施設である公民館、集会所、コミュニティセンターの地域譲渡が進んでいます。譲渡後は地域の会合や高齢者の居場所など現在の地域集会施設に近い施設活用がされています。

蒲郡市内の地域集会施設は、上記西尾市のような活用事例のほか、お祭り時のちゃらぼこの練習、趣味サークルの活動、外国人住民への日本語教室、子ども会活動など幅広く使用されています。

- F 案G案の公民館のプラン作成の考え方に出てくる「校内に公民館活動や地域との連携ができる場所の設置検討」とは、学校の敷地内に別棟を建設するということなののでしょうか。それとも校舎内にそのようなスペースを設けるということなののでしょうか。公民館と何が違うのか知りたいです。
(ふりかえりシートより)

昨年3月に竹島小学校敷地内へ移転オープンした府相公民館は、公民館が所有するホール等のほか、小学校が使用しない時間帯には学校会議室、調理室、図書室を利用することができます。今後、公民館建替え時には学校との複合化を検討し、同様の運用をしていきたいと考えています。

ご質問いただいた「校内に設置される連携拠点」については、学校・地域・公民館本館（中央小学校内に設置される連携拠点の場合は蒲郡公民館を想定しています）等の橋渡しを行う機能を校舎内に設置し、地域の会合やサークル活動などで学校の特別教室や空き教室等を活用できる施設をイメージしています。

評価の視点についてのご意見への回答

評価の視点に關していただいたご意見について、以下のとおり評価項目に反映しました。なお、実際の評価項目は令和元年度にいただいたご意見も含めて作成しています。

ご意見	回答
・世代間交流や外国籍の方も含めた多様な人の利用がしやすい施設配置となるとよい。 【視点①地域での活動・交流のしやすさ】	・項目ウ「多世代・外国人など多様な人が集まり、交流できる施設配置となっているか。」という項目で評価しました。
・集約後の施設配置で現在と同等の地域活動が維持できるかどうかは重要だ。 【視点①地域での活動・交流のしやすさ】	・項目エ「歴史文化の継承やお祭りなどの地域活動が行いやすい施設配置となっているか。」という項目に含むものとして整理しました。
・中学校の部活動がなくなるので部活動で学校を評価しても意味がない。学校再編を機に、学校とクラブ活動を切り離して考えてもよいのではないだろうか。 【視点②学校教育環境のあり方】	・蒲郡市では令和2年度より中学校において部活動の選択制が導入され、希望する生徒のみが部活動に参加する方式に変更されました。また、小学校においては今年度いっぱい部活動が廃止される予定です。 ・授業後における子ども達の活動の幅を広げる（社会体育等への参加や学習支援など）ことが小学校における部活動廃止の理由の一つです。過去のご意見も参考に、項目サ「子ども達が市民団体の活動に参加できるような施設配置となっているか。」という項目で評価しました。
・高齢者にとって移動が容易な場所に施設があるかが重要だ。 【視点④高齢者の居場所づくり】	・項目チ「高齢者が歩いて通える施設配置となっているか。」という項目で評価しました。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

ご意見	回答
・公民館での敬老会などの活動は重要だと思う。 【視点④高齢者の居場所づくり】	・項目テ「中高年・高齢者が日常的に交流できる居場所は確保されているか。」に含まれるものとして整理しました。ただし、施設の再配置だけで向上するものではなく、整備後の運営によるものであるため、一律「○」として評価しています。
・通学の安全性は重要な視点だ。人数が少なく、通学団が作れない地区もあり、犯罪も心配。 【視点⑤安全・安心】	・項目ヌ・ネ「子ども達の通学の安全性が確保されているか（交通安全・防犯）」という項目に含むものとして整理しました。
・災害時における高齢者や障がい者の避難のしやすさなど、バリアフリー、ユニバーサルデザインの視点も盛り込むべきである。 【視点⑤安全・安心】	・項目ナ「災害時に避難しやすい施設配置となっているか」、項目ハ「誰もが利用しやすい施設が整備されているか」という項目に含むものとして整理しました。
・運営コストを考慮する必要がある。 ・義務教育学校（小中一貫校）の方が小中連携よりも経費削減、効率化になる。 【視点⑦将来負担の縮減】	・視点⑦将来負担の縮減において、50年間に必要となる維持管理費用がどの程度縮減される見込みかをもとに評価を行いました。
・公民館などの施設を多世代交流の場として、どう活用していくのか考える必要がある。 ・施設が複合化していく際に、各施設の機能を有効活用することが重要である。 【視点⑧運営の改善】	・案の絞り込み後に各案の配置を前提とした付帯事項（施設の再配置を実施後に配慮しなければならない事項）として、整理します。どのような活用方法が考えられるか皆さまからのご意見をいただければと考えております。
・将来世代にとって魅力ある公共施設であるかという視点が必要。魅力、安全性、実行力をまず検討し、その上で適正化や効率化を考えていくのが良いのではないかな。	・このワークショップは、将来に大きな負担を残さずに、地区の皆さまにとって魅力ある施設整備を行うために実施しています。 ・そのために、基本方針の5つのキーワード（魅力・安全性・効率

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

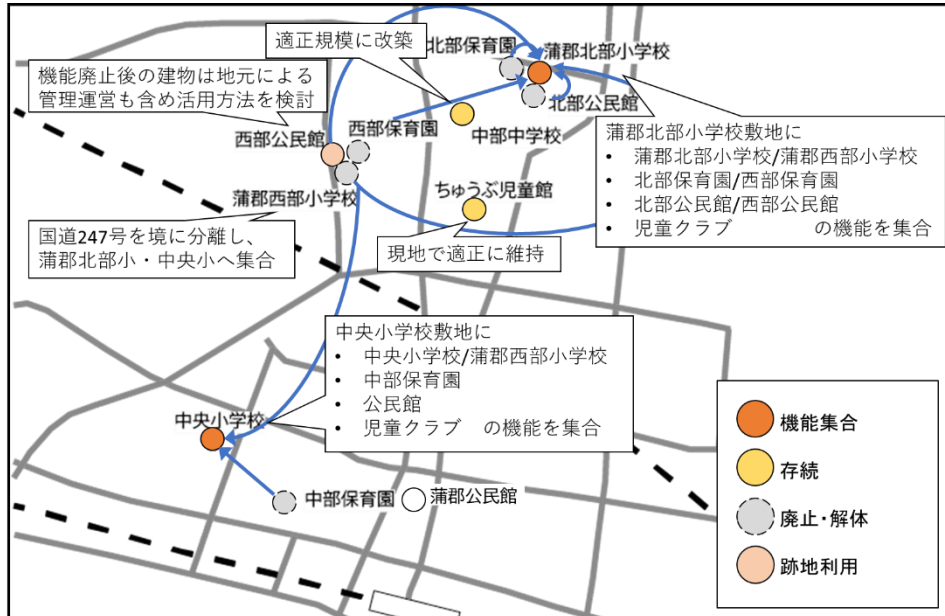
ご意見	回答
	化・適正化・実行力) はどれも必要な視点であり、優劣をつけることなく、総合的に判断していくべきであると考えています。
• サポートが必要な人たちをどう支えていくのかという視点が少ない。	• 評価項目として検討しましたが、施設の再配置だけで解決できる視点ではないため、評価項目の設定は行いませんでした。 • サポートが必要な方々を地域でどのように支えていくのかという視点では、施設のバリアフリー化や地域での居場所づくりという意味での交流が考えられるのではないのでしょうか。 • 案の絞り込み後に各案の配置を前提とした付帯事項（施設の再配置を実施後に配慮しなければならない事項）として、上記以外にもどのような方策が考えられるか皆さまからのご意見をいただければと考えております。

A

通学の安全を確保し、
学校規模の適正化を図るプラン

【重点を置いた解決策】③⑩

- 蒲郡西部小学校は国道 247 号を境に分離し、蒲郡北部小学校・中央小学校と集合します。
- 蒲郡北部小学校敷地に蒲郡北部小学校、蒲郡西部小学校、北部保育園、西部保育園、北部公民館、西部公民館、児童クラブの機能を集め、北部地区・西部地区の新たな拠点を整備します。
- 中央小学校敷地に中央小学校、蒲郡西部小学校、中部保育園、公民館、児童クラブの機能を集めます。
- 中部中学校は適正規模に改築します。
- 西部公民館建物は地元による管理運営も含め活用方法を検討します。



小中学校規模適正化方針/グランドデザインとの関係性

学校	○西部小学校の規模適正化に寄与する ×推奨案とは異なり、北部小敷地に小学校が整備される
公民館	○北部/西部地区の公民館が整理される ○公民館と小学校が集合し、地域と学校が連携・交流しやすい施設の整備に寄与する
保育園	○地区内の保育園が2園に整理され、集団保育を保証できる園児数を確保することができる

特徴/課題

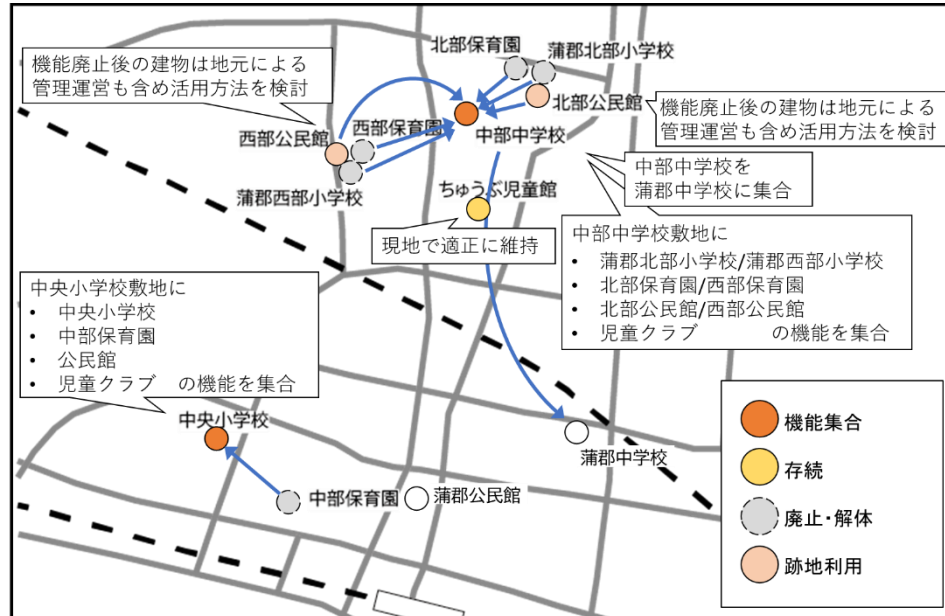
- 交通量の多い国道 247 号を渡ることなく、子ども達が通学できる
- 西部地域の施設が他地区に移ってしまうため、アクセス面での利便性が低下する

B

北部地区と西部地区の
新たな交流拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】①⑤

- 中部中学校は蒲郡中学校と集合します。
- 中部中学校敷地に蒲郡北部小学校、蒲郡西部小学校、北部保育園、西部保育園、北部公民館、西部公民館、児童クラブの機能を集め、北部地区・西部地区の新たな拠点を整備します。
- 中央小学校敷地に中央小学校、中部保育園、公民館、児童クラブの機能を集め、中央小学校区の拠点を整備します。
- ちゅうぶ児童館は現地で適正に維持していきます。
- 北部公民館、西部公民館建物は地元による管理運営も含め活用方法を検討します。



小中学校規模適正化方針/グランドデザインとの関係性

学校	○北部小/西部小が集合し、中部中敷地に整備される ×中部中が蒲郡中と集合することで、蒲郡中が大規模校となる
公民館	○北部/西部地区の公民館が整理される ○公民館と小学校が集合し、地域と学校が連携・交流しやすい施設の整備に寄与する
保育園	○地区内の保育園が2園に整理され、集団保育を保証できる園児数を確保することができる

特徴/課題

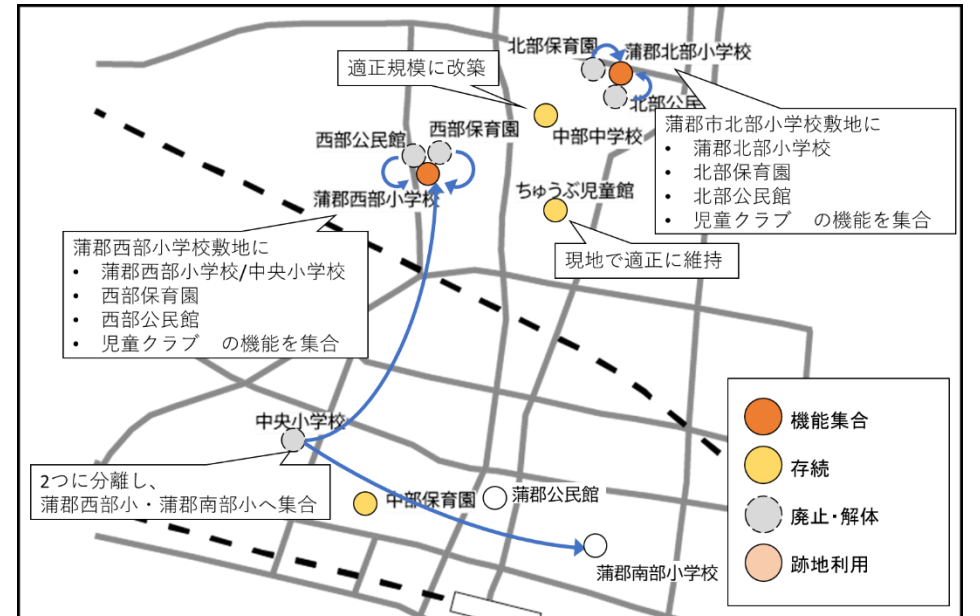
- 西部地区/北部地区の中心である中部中学校敷地に機能が集合し、両地区合同の新たな拠点が整備される
- 中央小学校の敷地に小学校・保育園・児童クラブに加え、公民館機能を集合させることで、中央小学校区の拠点が整備される

C

地域の交流拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】①②

- 中央小学校を2つに分離し、蒲郡西部小学校・蒲郡南部小学校と集合します。
- 蒲郡北部小学校敷地に蒲郡北部小学校、北部保育園、北部公民館、児童クラブの機能を集めます。
- 蒲郡西部小学校敷地に蒲郡西部小学校、中央小学校、西部保育園、西部公民館、児童クラブの機能を集めます。
- 中部中学校、中部保育園は適正規模に改築します。
- ちゅうぶ児童館は現地で適切に維持していきます。



小中学校規模適正化方針/グランドデザインとの関係性

学校	×西部小学校の学校規模が改善しない ×標準規模に位置する中央小学校が分割される
公民館	×北部地区/西部地区の公民館が2館残る ○公民館と小学校が集合し、地域と学校が連携・交流しやすい施設の整備に寄与する
保育園	×地区内の保育園が整理されず、3園残る

特徴/課題

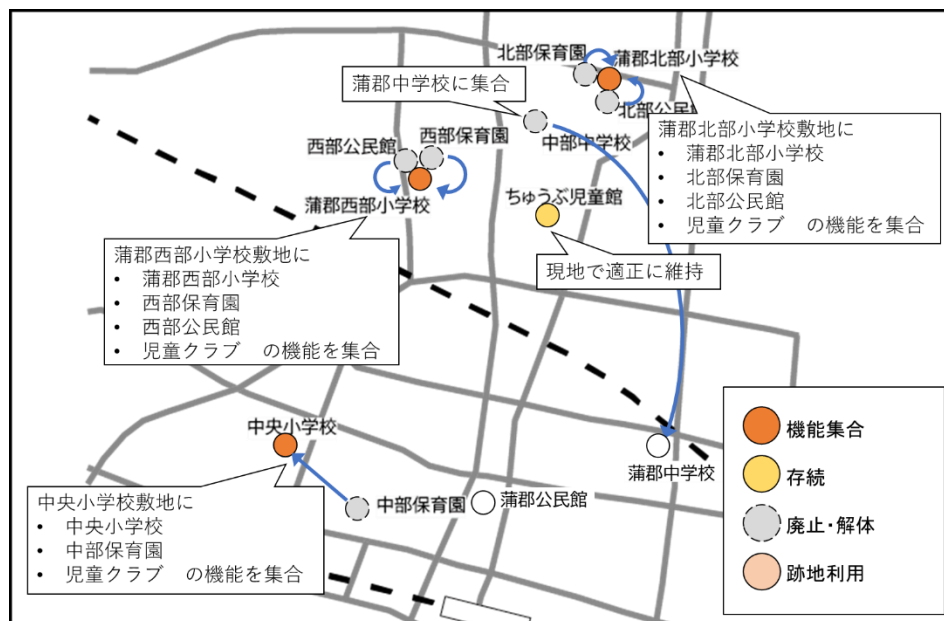
- 小学校・保育園・公民館が集合することで地域の交流拠点を整備することができる
- 中央小学校の集合により、公民館と小学校の活動範囲が同じになり、地域と子ども達の活動の連携を図りやすくなる

D

地域性を維持し、
各地に子育ての拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】②⑤

- 蒲郡北部小学校敷地に蒲郡北部小学校、北部保育園、北部公民館、児童クラブの機能を集めます。
- 蒲郡西部小学校敷地に蒲郡西部小学校、西部保育園、西部公民館、児童クラブの機能を集めます。
- 中央小学校敷地に中央小学校、中部保育園、児童クラブの機能を集めます。
- 中部中学校は蒲郡中学校と集合します。
- ちゅうぶ児童館は現地で適正に維持していきます。



小中学校規模適正化方針/ランドデザインとの関係性

学校	×西部小学校の学校規模が改善しない ×中部中が蒲郡中と集合することで、蒲郡中が大規模校となる
公民館	×北部地区/西部地区の公民館が2館残る ○公民館と小学校が集合し、地域と学校が連携・交流しやすい施設の整備に寄与する
保育園	×地区内の保育園が整理されず、3園残る

特徴/課題

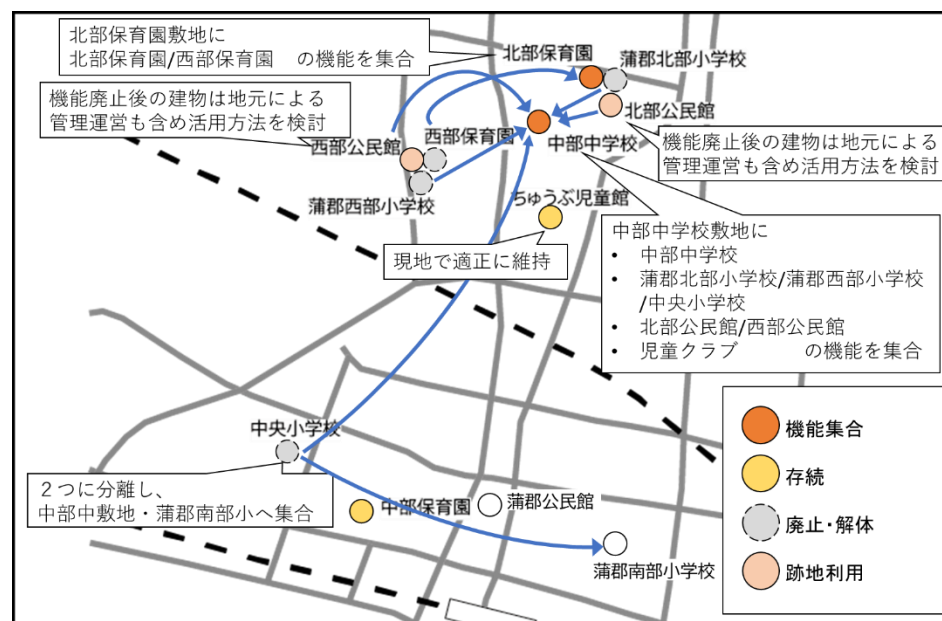
- 既存の小校区単位での整備がされるため、地区と小学校の繋がりが維持される
- 小学校を全て維持するため、将来の費用負担が大きい

E

充実した教育の拠点と
世代間交流の場をつくるプラン

【重点を置いた解決策】③④

- 中央小学校を2つに分離し、蒲郡北部小学校/蒲郡西部小学校・蒲郡南部小学校と集合します。
- 中部中学校敷地に中部中学校、蒲郡北部小学校、蒲郡西部小学校、中央小学校、北部公民館、西部公民館、児童クラブ機能を集めます。
- 北部保育園敷地に北部保育園、西部保育園の機能を集めます。
- 中部保育園は適正規模に改築します。
- ちゅうぶ児童館は現地で適正に維持していきます。
- 北部公民館、西部公民館建物は地元による管理運営も含め活用方法を検討します。



小中学校規模適正化方針/ランドデザインとの関係性

学校	○北部小/西部小/中部中が集合し、中部中敷地に整備される ×標準規模に位置する中央小学校が分割される
公民館	○北部/西部地区の公民館が整理される ○公民館と小学校が集合し、地域と学校が連携・交流しやすい施設の整備に寄与する
保育園	○地区内の保育園が2園に整理され、集団保育を保證できる園児数を確保することができる

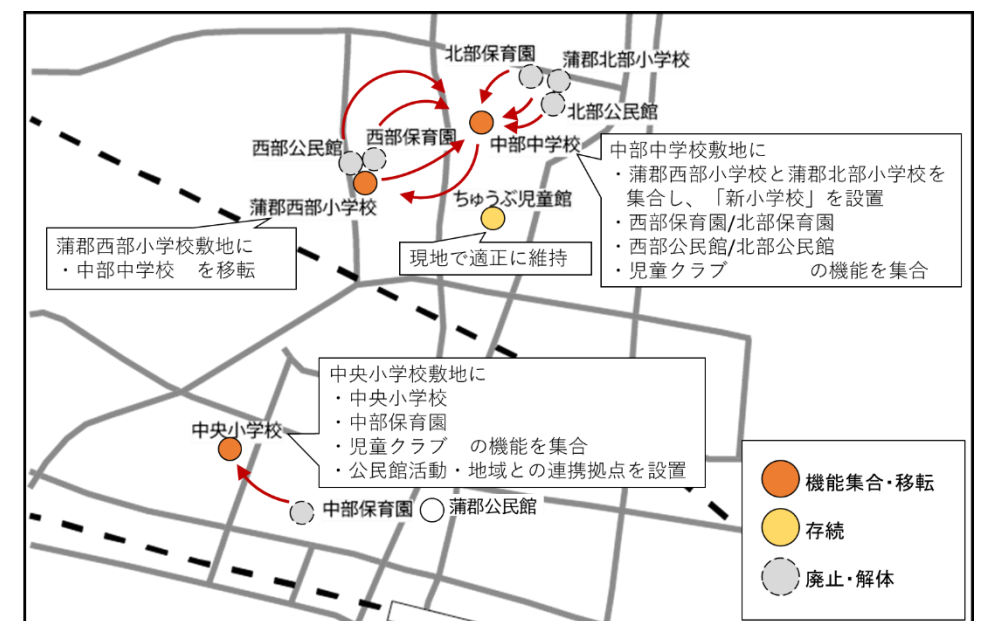
特徴/課題

- 中部中敷地にて小学校と中学校が集合することで、充実した教育の拠点が整備される
- 小学校と保育園が離れるため、子ども達のお迎えに手間がかかる

F

小中学校規模適正化方針 A プランと
ランドデザインをもとに作成したプラン

- 中部中学校敷地に蒲郡西部小学校・蒲郡北部小学校を合わせた「新しい小学校」を設置します。
- さらに中部中学校敷地に西部保育園、北部保育園、西部公民館、北部公民館、児童クラブの機能を集めます。
- 中部中学校は蒲郡西部小学校敷地に移転し、中学校において「地域に根ざした学校」づくりを行います。
- 中央小学校敷地に中央小学校、中部保育園、児童クラブの機能を集め、校内に公民館活動・地域との連携拠点を設置します。

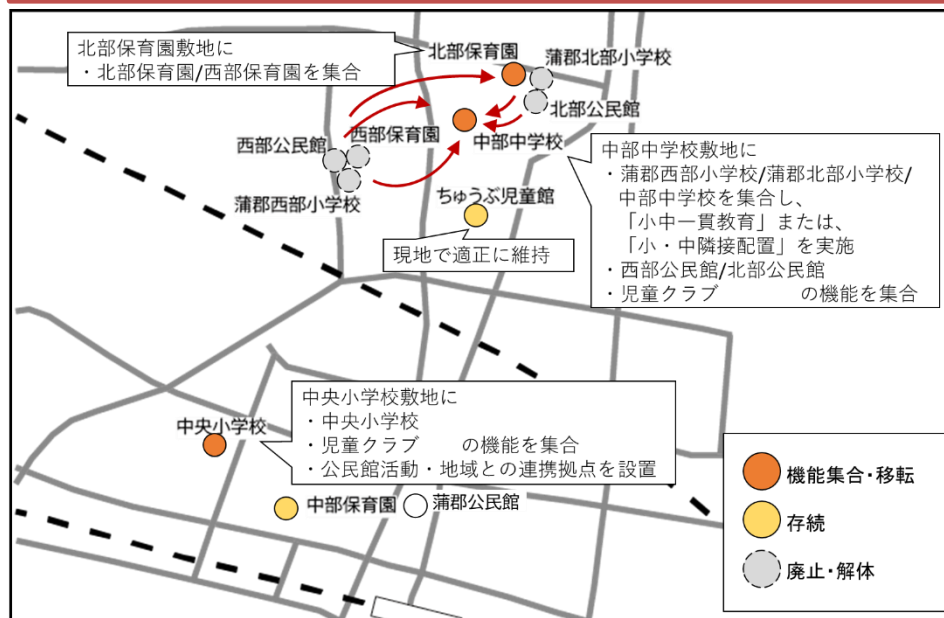


プラン作成の考え方

学校	●西部小学校と北部小学校を集合し、中部中学校敷地に「新しい小学校」を設置 ●中部中学校を西部小敷地へ移転し、「地域に根ざした学校」づくりを推進
公民館	概要版「6 公民館の配置について」より ●蒲郡北地区は1館が相当 ●可能な場合、小学校との複合化を検討(複合化しない場合、校内に公民館活動や地域との連携ができる場所の設置検討) ⇒ ●「新しい小学校」と西部公民館/北部公民館を集合 ●中央小学校内に連携拠点を設置
保育園	●地区内の保育園を3園から2園に集約 ●配置として考えられる「他施設と集合する場合」と「単独で建替える場合」の2パターンのうち、前者でプランを作成

小中学校規模適正化方針 B プランと ランドデザインをもとに作成したプラン

- 中部中学校敷地に蒲郡西部小学校・蒲郡北部小学校・中部中学校を集合し、「小中一貫教育の導入」もしくは「小中学校の隣接配置」を実施します。
- さらに中部中学校敷地に西部公民館、北部公民館、児童クラブの機能を集めます。
- 中央小学校敷地に中央小学校、児童クラブの機能を集め、校内に公民館活動・地域との連携拠点を設置します。
- 北部保育園敷地に西部保育園、北部保育園の機能を集めます。



プラン作成の考え方

学校	・中部中学校の敷地に西部小学校/北部小学校を集合させ、中部中学校との「小中一貫教育の導入」「小中学校を隣接配置」
公民館	概要版「6 公民館の配置について」より ・蒲郡北地区は1館が相当 ・可能な場合、小学校との複合化を検討(複合化しない場合、校内に公民館活動や地域との連携ができる場所の設置検討) ⇒ ・西部小学校/北部小学校と西部公民館/北部公民館を集合 ・中央小学校内に連携拠点を設置
保育園	・地区内の保育園を3園から2園に集約 ・配置として考えられる「他施設と集合する場合」と「単独で建替える場合」の2パターンのうち、後者でプランを作成 ・3保育園のうち市有地に立地する北部保育園、中部保育園敷地にて再編をするものとして作成

(参考) 小中学校規模適正化方針/ランドデザインの考え方について

〈小中学校規模適正化方針〉

【標準規模・標準配置】

	標準規模	標準配置	
		通学距離	通学時間
小学校	12～18 学級	概ね 4 km	1 時間以内
中学校	9～18 学級	概ね 6 km	1 時間以内

→市の標準規模を下回る規模の学校は適正化に向けた検討を行う

【地区内の適正化検討対象校とその対応策】

○蒲郡西部小学校

〔現状〕 普通学級数：6学級 児童数：61人

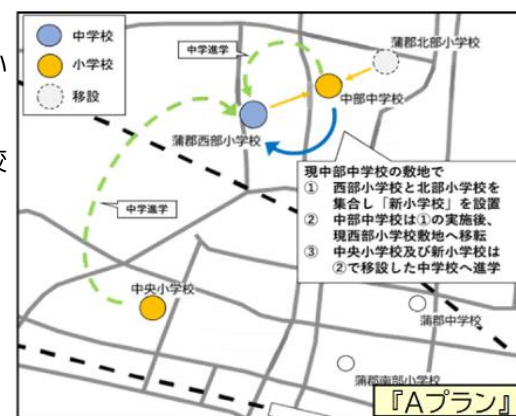
〔推計（2040）〕 普通学級数：6学級 児童数：62人

→方針：近隣の学校も含めた「新しい学校教育体制の構築」

西部小学校は蒲郡市の小学校の中で最も小規模校であり、現状でも10人未満の学年もあるため、教育活動や行事等での制約が大きく、多様性の向上を育む教育を行うことが容易でないなどの教育上の課題も多いため、以下の手法で適正な規模に是正していきます。

〈Aプラン〉

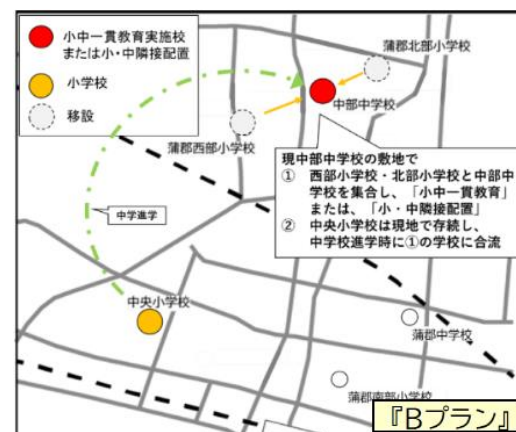
- ・現中部中敷地に西部小・北部小を合わせた「新しい小学校」を設置し、標準規模の小学校での教育活動を実施
- ・中部中を現西部小敷地へ移設し、中学校において「地域に根ざした学校」づくりを推進



課題 現西部小敷地の面積が狭いため、敷地の拡大が必要。

〈Bプラン〉

- ・現中部中敷地に西部小・北部小を集合させ、中部中との「小中一貫教育の導入」または「小学校・中学校を隣接配置」することで、小・中学校の連携協力体制を構築
- ・中央小は現地で存続し、中学校進学時から合流



課題 小中一貫教育導入の場合、中央小児童は中学進学時から合流するため、本来9年間を見通した系統的な教育による様々な効果が得られない可能性がある。

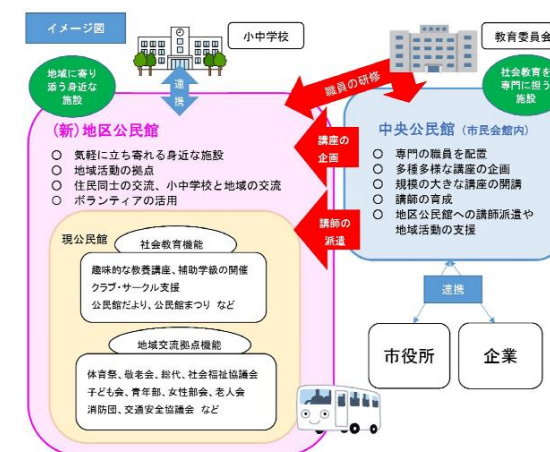
〈公民館ランドデザイン〉

【目指すべき公民館の姿】

公民館の機能を2に分け、それぞれの機能を十分に発揮させます。

- ① 社会教育機能（学習機能）を果たす「中央公民館」
- ② 地域交流拠点機能（地域と人のつながり）を果たす「地区公民館」

※ 地区公民館建替えの際は可能な限り小学校との複合化を検討する。



【各地区の公民館の配置に関する考え方】

蒲郡北地区（北部・西部公民館）

人口規模が小さく、中部中学校を中心に施設が比較的近い距離に配置されて一定の範囲にまとまっているため、地区内に1館が相当。

ただし、中央小学区は蒲郡公民館を利用しているため、蒲郡南地区で検討します。

蒲郡南地区（蒲郡・小江・府相・東部公民館）

地区内に3館が相当。ただし、公民館が小学校と複合化しない場合は、校内に公民館活動や地域連携ができる場所の設置を検討します。

〈保育園ランドデザイン〉

【基本的な考え方】

- ・各地区、各保育園で統一的な保育サービス（低年齢児保育・延長保育）を実施できるよう適正配置について検討します。
- ・基準とする規模は、一人一人のきめ細やかな保育を実現しつつ、健全な成長・育ちの観点から集団保育を保証できる保育園の規模（概ね80～130人程度）とします。

【中部中学校区における考え方】

○ 将来ニーズの予想

	0-5歳児計
2040年時点中学校区内保育園等入所数予想(①+②)	265
2040年時点中学校区内居住児童の入所ニーズ予想①	310
2040年時点他中学校区の民間園への入所予想②	▲45

○ 今後のあり方

- ・現在の公立保育園を3園から2園に集約します。2040年時点の中学校区内保育園等入所数予想は265人であり、2園に集約する場合1園あたり132人となり、概ね基準とする規模となります。

再配置プラン案の評価検証

1 再配置プラン案を比較評価するための評価軸

視 点	内 容	評価項目
① 地域での活動・交流のしやすさ	- 世代間の交流が活性化する施設配置となっているか。 - 若い世代や外国人も集まれる場所は整備されているか。 - 地域での活動が行いやすい施設配置となっているか。	ア 学校施設を地域活動で利用しやすい施設配置となっているか。（公民館、公民館活動・地域との連携拠点と学校の位置関係で評価） イ 地区役員などの住民負担は軽減されるか。（構成員の大きさで評価） ウ 多世代・外国人など多様な人が集まり、交流できる施設配置となっているか。（施設の位置関係で評価） エ 歴史文化の継承やお祭りなどの地域活動が行いやすい施設配置となっているか。（公民館、公民館活動・地域との連携拠点の位置関係で評価） オ 伝統的な地域のつながりを保つことのできる施設配置となっているか。（小学校の位置関係で評価）
② 学校教育環境のあり方	- 適切な学校規模が維持されているか。 - 学校周辺の環境は適切か。 - 地域性に応じた学校の配置になっているか。	カ 適切な学校規模が維持されているか。（小学校）（20年後の学校規模を規模適正化方針にあてはめて評価） キ 適切な学校規模が維持されているか。（中学校）（20年後の学校規模を規模適正化方針にあてはめて評価） ク 通学の利便性は確保されるか。（小学校）（小学校の周辺年少人口で評価） ケ 通学の利便性は確保されるか。（中学校）（中学校の周辺年少人口で評価） コ 子ども達に手厚い支援が行えるような施設配置となっているか。 サ 子ども達が市民団体の活動に参加できるような施設配置となっているか。（小学校と公民館、公民館活動・地域との連携拠点の位置関係で評価） シ 小中連携した教育が期待できる施設配置となっているか。（小中学校の位置関係で評価）
③ 子育てしやすい環境づくり	- 子育てしやすい施設配置となっているか。 - 児童クラブは適切な場所で実施できているか。	ス 子育て関連施設は近接して配置されているか。（保育園と小学校の位置関係で評価） セ 児童クラブを利用する子ども達が安全に移動できる施設配置となっているか。（児童クラブと小学校の位置関係で評価） ソ 児童館は安心して子どもを遊ばせられる場所となっているか。 タ 地区内の保育園で低年齢児保育は実施されているか。
④ 高齢者の居場所づくり	- 高齢者の居場所は整備されているか。 - 高齢者が他世代と関わりを持ちやすい施設配置となっているか。	チ 高齢者が歩いて通える施設配置となっているか。（公民館、公民館活動・地域との連携拠点の周辺高齢者人口で評価） ツ 高齢者が地域の子どものために活躍できる施設配置となっているか。（公民館、公民館活動・地域との連携拠点と小学校・保育園の位置関係で評価） テ 中高年・高齢者が日常的に交流できる居場所は確保されているか。
⑤ 安全・安心	- 交通安全に配慮した施設配置となっているか。 - 災害に強い施設配置となっているか。 - 避難所としての施設配置は適切か。	ト 災害時に子ども達がまとまっており、安心できる施設配置となっているか（小学校・中学校・保育園の位置関係で評価） ナ 災害時に避難しやすい施設配置となっているか。（避難所の周辺人口で評価） ニ 津波や河川の氾濫等が考慮された施設配置となっているか。 ヌ 子ども達の通学の安全が確保されているか。（交通安全） ネ 子ども達の通学の安全が確保されているか。（防犯）
⑥ 利便性の確保	- 近接した場所で多様な活動が行えるような施設配置となっているか。 - アクセスしやすい施設配置となっているか。	ノ 自動車でアクセスしやすい施設配置となっているか。（駐車場の確保可能性で評価） ハ だれもが利用しやすい施設が整備されているか。 ヒ 各地域から利用しやすい施設配置となっているか。（地域間の公民館、公民館活動・地域との連携拠点の配置バランスで評価） フ 多様な活動ができる施設は整備されているか。（施設の位置関係で評価）
⑦ 将来負担の縮減	維持更新費用・運営費用は縮減されているか。	一定期間の施設にかかる総コストが低いものを評価する。 - 面積が小さいなど、建替え・改築費・改修費・修繕費が安価な場合は総コストが低くなる。 - 土地の売却や借地の返還が発生する場合は、総コストが低くなる。 - 面積が小さいなど、建物の維持管理費（光熱費・保守点検費等）が安価な場合は総コストが低くなる。

2 皆さまから頂いたご意見に基づく評価

- 視点①～⑥については、評価項目ごとに ◎：現状より向上、○：現状維持もしくは一長一短がある、△：現状より低下 の3段階で評価します。
- 視点⑦については、LCC（ライフサイクルコスト）の試算における50年間の縮減額に基づき評価します。（試算の結果及び条件等は別冊資料「項目ごとの評価の解説」p.27～30のとおり。）

視 点	評 価 項 目		A 案	B 案	C 案	D 案	E 案	F 案	G 案	
① 地域での活動・ 交流のしやすさ	ア 学校施設を地域活動で利用しやすい施設配置となっているか。（公民館、公民館活動・地域との連携拠点と学校の位置関係で評価）		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	イ 地区役員などの住民負担は軽減されるか。（構成員の大きさで評価）		◎	◎	○	◎	○	◎	◎	
	ウ 多世代・外国人など多様な人が集まり、交流できる施設配置となっているか。（施設の位置関係で評価）		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	エ 歴史文化の継承やお祭りなどの地域活動が行いやすい施設配置となっているか。（公民館、公民館活動・地域との連携拠点の位置関係で評価）		○	○	◎	○	○	○	○	
	オ 伝統的な地域のつながりを保つことのできる施設配置となっているか。（小学校の位置関係で評価）		△	△	△	○	△	△	△	
② 学校教育環境の あり方	カ 適切な学校規模が維持されているか。（小学校）（20 年後の学校規模を規模適正化方針にあてはめて評価）		◎	◎	○	○	◎	◎	◎	
	キ 適切な学校規模が維持されているか。（中学校）（20 年後の学校規模を規模適正化方針にあてはめて評価）		○	△	△	△	△	○	○	
	ク 通学の利便性は確保されるか。（小学校）（小学校の周辺年少人口で評価）		○	○	△	○	△	○	○	
	ケ 通学の利便性は確保されるか。（中学校）（中学校の周辺年少人口で評価）		○	△	◎	△	◎	△	○	
	コ 子ども達に手厚い支援が行えるような施設配置となっているか。		○	○	○	○	○	○	○	
	サ 子ども達が市民団体の活動に参加できるような施設配置となっているか。（小学校と公民館、公民館活動・地域との連携拠点の位置関係で評価）		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	シ 小中連携した教育が期待できる施設配置となっているか。（小中学校の位置関係で評価）		○	○	○	○	◎	○	◎	
③ 子育てしやすい 環境づくり	ス 子育て関連施設は近接して配置されているか。（保育園と小学校の位置関係で評価）		◎	◎	◎	◎	△	◎	△	
	セ 児童クラブを利用する子ども達が安全に移動できる施設配置となっているか。（児童クラブと小学校の位置関係で評価）		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	ソ 児童館は安心して子どもを遊ばせられる場所となっているか。		○	○	○	○	○	○	○	
	タ 地区内の保育園で低年齢児保育は実施されているか。		○	○	○	○	○	○	○	
④ 高齢者の居場所 づくり	チ 高齢者が歩いて通える施設配置となっているか。（公民館、公民館活動・地域との連携拠点の周辺高齢者人口で評価）		◎	◎	○	○	△	◎	◎	
	ツ 高齢者が地域の子どものために活躍できる施設配置となっているか。（公民館、公民館活動・地域との連携拠点と小学校・保育園の位置関係で評価）		◎	◎	◎	◎	○	◎	○	
	テ 中高年・高齢者が日常的に交流できる居場所は確保されているか。		○	○	○	○	○	○	○	
⑤ 安全・安心	ト 災害時に子ども達がまとまっており、安心できる施設配置となっているか（小学校・中学校・保育園の位置関係で評価）		◎	○	◎	○	○	◎	○	
	ナ 災害時に避難しやすい施設配置となっているか。（避難所の周辺人口で評価）		△	△	○	△	△	△	○	
	ニ 津波や河川の氾濫等が考慮された施設配置となっているか。		○	○	○	○	○	○	○	
	ヌ 子ども達の通学の安全が確保されているか。（交通安全）		◎	◎	△	○	○	○	◎	
	ネ 子ども達の通学の安全が確保されているか。（防犯）		○	○	○	○	○	○	○	
⑥ 利便性の確保	ノ 自動車でアクセスしやすい施設配置となっているか。（駐車場の確保可能性で評価）		◎	◎	○	◎	○	◎	○	
	ハ だれもが利用しやすい施設が整備されているか。		○	○	○	○	○	○	○	
	ヒ 各地域から利用しやすい施設配置となっているか。（地域間の公民館、公民館活動・地域との連携拠点の配置バランスで評価）		○	○	○	○	○	○	○	
	フ 多様な活動ができる施設は整備されているか。（施設の位置関係で評価）		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
⑦ 将来負担の縮減	LCC（ライフサイクルコスト）試算における 50 年間の縮減額（単位：百万円）		8,394	13,038	9,055	5,494	11,871	7,253	8,245	
			◎の個数	13	12	10	9	8	12	10
			○の個数	13	12	14	16	14	13	16
			△の個数	2	4	4	3	6	3	2
<参考>Ⅰ 視点①～⑥についての評価（75 点満点）			52.23	48.21	45.54	45.54	40.18	49.55	48.21	
<参考>Ⅱ 視点⑦についての評価 （25 点満点）			16.10	25.00	17.36	10.92	22.76	13.91	15.81	
<参考>合計（Ⅰ＋Ⅱ） （100 点満点）			68.33	73.21	62.90	56.45	62.94	63.46	64.02	

- 評価項目ごとに ◎：各方針の考え方と整合している、 ○：各方針の考え方と概ね整合している、 △：各方針の考え方と異なっている の3段階で評価します。

	評 価 項 目		A 案	B 案	C 案	D 案	E 案	F 案	G 案		
小学校	1	地区内の児童が通う小学校は標準規模の範囲に収まっているか。	◎	◎	△	△	◎	◎	◎		
	2	地区内の児童が通う小学校の通学距離・時間は基準とする範囲に収まっているか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	3	地区内の施設配置は方針で推奨されている適正化に向けた対応策に基づく配置となっているか。	△	◎	△	△	△	◎	◎		
中学校	1	地区内の生徒が通う中学校は標準規模の範囲に収まっているか。	◎	△	△	△	△	◎	◎		
	2	地区内の生徒が通う中学校の通学距離・時間は基準とする範囲に収まっているか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	3	地区内の施設配置は方針で推奨されている適正化に向けた対応策に基づく配置となっているか。	◎	△	◎	△	◎	◎	◎		
公民館	1	地域と人をつなぐ公民館となっているか。	△	△	○	△	○	△	△		
	2	青少年が地域との交流活動に参加しやすいか。	○	○	○	○	◎	○	◎		
	3	学校との連携がしやすい環境が整備されているか。	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎		
	4	地区内に配置されている公民館数がグランドデザインに合致しているか。	△	△	△	△	◎	◎	◎		
保育園	1	集団保育を保証できる規模を維持できるか。	○	○	△	△	○	○	○		
	2	費用負担の軽減が見込まれるか。	◎	◎	△	△	◎	◎	◎		
	3	地区内に配置される保育園数がグランドデザインに合致しているか。	◎	◎	△	△	◎	◎	◎		
	4	保育サービスの統一が図られているか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
			小学校	◎の個数	2	3	1	1	2	3	3
				○の個数	0	0	0	0	0	0	0
				△の個数	1	0	2	2	1	0	0
			中学校	◎の個数	3	1	2	1	2	3	3
				○の個数	0	0	0	0	0	0	0
				△の個数	0	2	1	2	1	0	0
			公民館	◎の個数	1	1	1	0	3	2	3
				○の個数	1	1	2	2	1	1	0
				△の個数	2	2	1	2	0	1	1
			保育園	◎の個数	3	3	1	1	3	3	3
				○の個数	1	1	0	0	1	1	1
				△の個数	0	0	3	3	0	0	0
＜参考＞各案の評価（100 点満点）					72.92	64.58	43.75	29.17	77.08	87.50	90.63

＜参考＞点数の算出方法

- 皆さまから頂いたご意見に基づく評価
 - ・視点①～⑥については、各評価項目の ◎=2点、○=1点、△=0点として足し合わせ、75点に得点割合を乗じた値を下表のⅠにまとめました。
 - ・視点⑦については、50年間のLCC（ライフサイクルコスト）の縮減額の最も高い案を25点とし、その他の案は縮減額に比例して減点した値を下表のⅡにまとめました。
 - ・ⅠとⅡを足し合わせ100点満点で合計を計算しました。
- グランドデザインの考え方に基づく各案の評価
 - ・小学校、中学校、公民館、保育園の4施設それぞれの得点を25点ずつとして、100点満点で評価しました。
 - ・各施設の評価項目の ◎=2点、○=1点、△=0点として足し合わせ、それぞれ25点に得点割合を乗じた値を下表にまとめました。

本日の検討内容

前回ご検討いただいた 7 つの再配置プラン案をご意見にもとづく「評価の視点」を踏まえて評価しました。

評価の内容について、修正点や配慮すべき点などがありますか。

次回ワークショップのご案内

「第6回蒲郡北地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」
を以下のとおり開催いたしますので、ご参加下さいますようお願いいたします。

1 日時

令和3年12月26日（日）

午後1時30分～午後4時30分

（受付開始時刻＊オンライン：午後1時 会場：午後1時15分）

2 お願い

- ・ ご欠席の場合や会場（中部中学校 図書室）での参加を希望される場合は、
12月17日（金）までに事務局へご連絡ください。
- ・ 次回ワークショップの資料を郵送で事前に配布いたしますので、届きましたら資料に不足がないかご確認ください。参加の際に使用するZoomの
ID・パスコードも同封させていただきます。

【ワークショップ事務局】

蒲郡市総務部公共施設マネジメント課

担 当：上田・尾寄・星野

電 話：0533-66-1214

ファクス：0533-66-1183

E-mail：k-mane@city.gamagori.lg.jp